岡部B&G海洋センター体育館改修工事

図　面　目　録

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A － 01	図面目録	A － 16	天井伏図　(改修前)		
A － 02	特記仕様書　（1）	A － 17	天井伏図　(改修後)		
A － 03	特記仕様書　（2）	A － 18	平面詳細図　(改修前)		
A － 04	特記仕様書　（3）	A － 19	平面詳細図　(改修後)		
A － 05	特記仕様書　（4）	A － 20	展開図　（1）		
A － 06	案内図　配置図	A － 21	展開図　（2）		
A － 07	設計概要書　外部仕上表	A － 22	展開図　（3）		
A － 08	内部仕上表	A － 23	展開図　（4）		
A － 09	1階平面図　(改修前)	A － 24	展開図　（5）		
A － 10	1階平面図　(改修後)	A － 25	展開図　（6）		
A － 11	屋根伏図　(改修前)	A － 26	建具表		
A － 12	屋根伏図　(改修後)				
A － 13	立面図				
A － 14	矩計図　（1）				
A － 15	矩計図　（2）				

[redacted]

承認	設計	担当	照査	縮尺
				設計年月日

工事名称　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

図面名称　図面目録

No. A-01

工事名　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

仕　様　書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　深谷市山河地内　　用途地域　指定なし

2．工事建物

棟名称・構造・階数	建築面積	延べ面積
鉄筋コンクリート造　1	1,179.25㎡	1,102.27㎡
	㎡	㎡
合　計	1,179.25㎡	1,102.27㎡

3．工事種目　部分改修工事

4．工事内容　防水改修工事、建具改修工事、内装改修工事、塗装改修工事

5．工　期　平成　年　月 契約 日から平成　年　月 契約 日まで

Ⅱ　建築工事仕様

1．共通仕様

(1) 図面、特記仕様書（改修）及び現場説明書（現場説明に対する質問解答書を含む）に記載されていない事項は、すべて埼玉県建築工事特別共通仕様書、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築改修工事共通仕様書（平成最新年版）」及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書（平成最新年版）」による。
(2) 「監督職員」は「監督員」に読み替える。「監督員」とは、契約書に規定する監督員をいう。
(3) 設計図書の優先順位は次のとおりとする。
　1　現場説明書（現場説明に対する質問回答を含む）
　2　特記仕様書（改修）（図面に記載された特記事項を含む）
　3　図面
　4　埼玉県建築工事特別共通仕様書
　5　建築改修工事共通仕様書（平成最新年版）
　6　建築工事共通仕様書（平成最新年版）

2．特記仕様

(1) 項目は、審号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。⊖印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　⊖印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の［　　］内の表示番号は、「埼玉県建築工事特別共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
(4) 特記事項に記載の［　　］内の表示番号は、「建築改修工事共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
(5) 特記事項に記載の（　　）内の表示番号は、「建築工事共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
(6) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、〈　〉内は製品名を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	① 適用基準等	⊙建築工事積算評価図（国土交通大臣官房官庁営繕部監修　平成最新年版） ・建築鉄骨設計基準及び同解説（建設大臣官房官庁営繕部監修　平成最新年版） ⊙埼玉県建築工事実務要覧
	② 工事実績情報の登録	※行う　・行わない　[1.1.4]
	③ 発生材の再資源化等	⊙現場説明書による　[1.1.13] ⊙構外搬出適正処理 ⊖引き渡しを要するものの図示 注 a) 発生材のうち特記により、引き渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に報告する。 b) 産業廃棄物処理許可書及び最終処理受入票の写しを提出する。 c) 引き渡しを要しないものは、すべて構外に搬出し、「資源の有効な利用の促進に関する法律」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」その他関係法令等により適切に処理し監督員に報告する。
	4 電気保安技術者	※適用する　[1.3.3]
	⑤ 条件明示事項	※火災保険等（種類　　期間　　）
	⑥ 建築材料等	本工事に使用する材料のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。 なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿」による。
	⑦ アスベスト含有の取扱い	各種材料については、アスベスト含有の有無を確認し、アスベストを含有する建材は、使用しない。
	⑧ 化学物質を発散する建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所用の品質及び性能を有するものとし、次の1）～5）を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ② 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ③ 接着剤はフタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ④ 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ⑤ 1）及び4）の建築材料を使用して作られた家具、書架、掲示台、その他の什器等はホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
	⑨ 特別な材料の工法	各共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。
	⑩ 技能士	※適用する　[1.6.2] 適用工事種別：技能検定の職種又は作業名 ・アスファルト防水工事作業　・合成高分子系シート防水工事作業 防水改修工事：⊙ウレタンゴム系塗膜防水工事作業　⊙シーリング防水工事作業　⊙左官　・建築板金 外壁改修工事：・左官　・タイル張り　・塗装 建具改修工事：・サッシ施工　・ガラス施工 内装改修工事：・プラスチック系床仕上げ工事作業　⊙ボード仕上げ工事作業　⊙鋼製下地工事作業　・表装　⊙左官　・建築大工　・タイル張り 塗装改修工事：⊙塗装 耐震改修工事：・鉄筋施工　・型枠施工　・とび ブロック、ALC工事：・ブロック建築　・ALCパネル施工 石工事：・石材施工 植栽工事：・造園
	11 予備材料の名称と数量	次の材料を予備材料として工事完成時に納入する。 ・タイル、・フローリング　・羽目板　・クロス
	⑫ 完成図等	※作成する。　[1.4.2][1.4.3][1.4.6][1.8.1][1.8.2][1.8.3][表1.8.1] ・現場説明書による ※完成図　※二つ折り（A2版）製本を1部提出する。 ※金文字製本を1部提出する。 ※保全に関する資料　提出部数　※1部　・　部
	⑬ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	⑭ 完成写真	下記のものを監督員に提出する。ただし、原版は撮影業者の保管とする。　[1.4.4] 作成は「埼玉県建築工事写真作成要領」による。 分類・規格　撮影箇所数　部数　原版の大きさ(mm) ⊙カラー　※キャビネ版（展開図を貼る写真（広角25～0.5°））　※1　・　※100×125以上 （他に外観正面1カット（カラーキャビ版）のみ　枚）　・60×70以上 ・カラー金紙パネル　外部（　）内部（　）※1　・
	⑮ 図面情報電子化媒体等	施工時と完成時の状況を比較できるように撮影すること。 撮影者　※監督員の承諾する業者。（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする。） ※図面情報電子化媒体　[1.4.5] なお、図面情報電子化媒体は、別に定める「埼玉県建築工事図面情報電子化媒体作成要領」による。
	⑯ 防水工事保証書	※屋上防水　期間10年間（請負者、施工者及び材料メーカーの3者連名とし、2部提出）[1.4.6] ・外壁防水　〃　（　〃　）
	⑰ 施工計画書	※施工に先立ち、次の施工計画書を作成し監督員の承諾を受ける。 ※総合施工計画書（安全計画を含む） ⊖分別解体等の計画書 ⊖防水改修工事施工計画書（下地処理を含む） ・外壁改修工事施工計画書（　〃　） ⊖建具改修工事施工計画書（　〃　） ⊖内装改修工事施工計画書（　〃　） ⊖塗装改修工事施工計画書（　〃　） ・耐震改修工事施工計画書（　〃　）
	⑱ 施工数量調査報告書	※施工に先立ち監督員の立ち会いを受け、施工範囲等の調査を行う。監督員の検査を受け、調査後は、報告書を提出して、監督員と協議する。　[1.5.2]
	19 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。
	20 設計GL	※図示　・設計GL＝現状GL
	㉑ その他	※建設機械は、原則として排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用する。
	22 施設CADデータの更新	※行う　・行わない
2 仮設工事	① 足場その他	内部足場　種別　※きゃたつ、足場板等　[2.2.1] 外部足場　種別　※A種　・B種　・C種　・D種　[2.2.1][表2.2.1] 防護シートによる養生　・行わない　⊙行う 材料、撤去材等の選搬　[2.2.1][表2.2.2] ・A種　※B種　・C種　・D種　・E種
	② 養生	既存部分の養生　※ビニールシート等　・行わない　⊙行う　[2.3.1] 固定家具等の移動　※行わない　・行う（図示）⊙行う（事前確認）　[2.3.1] 既存家具等の養生　※ビニールシート等　・　[2.3.1] 開口部分の養生　※　合板 t＝9.0mm以上　・行わない　・行う ※ビニールシート等　・行わない　⊙行う
	3 仮設間仕切り	仮設間仕切り等の種類　[2.3.2][表2.3.1] 種別　下地　仕上材（厚さmm）　充てん材　塗装 ・C種　単管下地　防炎シート ※B種　※軽量鉄骨　※合板（※9.0　・　5.5）　※無し ・A種　・木下地　・せっこうボード（※9.5　・　）　厚さ　mm　・片面 仮設扉　※木製扉　※合板張り程度　・　解体部品再利用　※無し ・鋼製扉　※片面フラッシュ程度　・　・有り
	4 監督員事務所	・設ける　※設けない　[2.4.1][表2.4.1][表2.4.2] 監督員事務所の規模及び備品 ・既存建物内の一部を使用する。 ・構内に新設する　㎡ ・次の備品について、　名分相当とする。　[2.4.1] ・机　・椅子　・書棚　・黒板　・製図板等　・掛時計　・寒暖計　・長靴　・雨合羽 ・保護帽　・懐中電灯　・安全帯　・軍手　・電話機　・衣類ロッカー　・冷暖房機器 ・消火器　・湯沸器　・茶器　・掃除用具
	⑤ 工事用水	構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償） ⊙　小メーターの設置（施工者負担）
	⑥ 工事用電力	構内既存の施設　・利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償） ⊙　小メーターの設置（施工者負担）
	⑦ 工事用搬入路	※図示
	8 仮囲い	※図示　・　監督員と協議とする。
	9 交通整理員	・必要に応じ搬入路付近に交通整理員を配置する。
3 防水改修工事	1 アスファルト防水	[3.1.4][3.3.3][表3.1.1][表3.3.3～表3.3.10] 防水改修工法の種類　施工箇所　新規防水層の種別 保護防水：・P1B　・B－1　※B－2 ・P1B1・T1B1　・B1－1　※B1－2 ・P2A1　・A1－1　※A1－2 水：・P2A　・A－1　※A－2 露出防水：・M4C　・C－1　※C－2　・C－3 ・M3D　・P0D　・D－1　※D－2　・D－3 屋内防水：・P1E　・P2E　・E－1　※E－2 （保護層は図示による） アスファルトの種類　※3種　・4種　[3.2.2][3.3.2] 保護コンクリートのコンクリート種類　※種類コンクリート　[3.3.2] 二重ドレン（P0D工法の場合）　※設けない　・設ける　[3.2.5] 脱気装置（M3D、P0D工法の場合）　※設けない　・設ける　[3.3.3] 既存露出防水表面の仕上げ塗装（M40工法の場合）　・除去する　[3.2.6]
	2 改質アスファルトシート防水	[表3.1.1][3.4.3][表3.4.1] 防水改修工法の種類　施工箇所　新規防水層の種別　仕上げ塗料塗り ・M4AS工法　・AS－1・AS－2　・シルバー ・M3AS工法　・AS－4・AS－5　・カラー ・P0AS工法 既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（M4AS工法の場合）　・除去する　[3.2.6] 脱気装置　※設けない　・設ける　[3.4.3]
	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	※　防水改修工法の種類は下記による　[表3.1.1][3.5.3][表3.5.1] 防水改修工法の種類（既存/撤去・新設去/施工）　施工箇所　新規防水層の種別（厚さ(mm)）　仕上塗料等 ・POS工法　・S－F1（※1.2　・　）　・カラー ・S4S工法　・S－F2（※2.0　・　）　・シルバー ・S－F3（※2.0　・　） ・L4S工法　屋上　平場　・S－M2（※1.5）、　・カラー　・グレー ・L4S工法　屋上　立上げ　・S－F2（※1.5）、　・カラー　・グレー ・カラー　・グレー 二重ドレン（　工法の場合）　・設けない　⊙設ける　[3.2.5] 脱気装置（S3S、M4S工法の場合）　設けない　・設ける 脱気装置（L4S工法の場合）　設けない　⊙設ける　[3.5.3] ⊖材質：塩化ビニール樹脂製（※脱気型　30L）
	④ 塗膜防水	[表3.1.1][3.6.3][表3.6.1] 防水改修工法の種類　施工箇所　新規防水層の種別　仕上げ塗料塗り ・POX工法　玄関屋根　種部　・X－1　・X－2　・シルバー ・L4X工法　・X－2　⊙カラー 既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（L4X工法の場合）　・除去する　[3.2.6] 脱気装置　※設けない　・設ける　[3.6.3]
	5 脱気装置	・　設ける　・設けない [3.3.3][3.4.3][3.5.3][3.6.3] 種類　材質　設置数量 ・平面部脱気型　・ポリエチレン樹脂　・ABS樹脂　（図示）個／㎡ ・ステンレス　・塩化ビニール ・立ち上がり部脱気型　合成ゴム　・塩化ビニル樹脂　（　）個／㎡ ・ステンレス　・鋼
	⑥ シーリング	シーリング改修工法の種類　[3.1.4][表3.1.2] ・シーリング充填工法　⊙シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法　・ブリッジ工法 シーリング材の種類、施工箇所　[3.1.4][3.7.2][4.2.2][表3.7.1] ※下表以外は、[表3.7.1]を標準とする シーリング材の種類（記号）　施工箇所
	⑦ とい	といの材種　・配管用鋼管　⊙硬質塩化ビニル管　・　[3.8.2][表3.8.1] 雨水とといの防露　※[表3.8.5]による ・次の箇所は行わない（　） 縦どい受け金物の取付け　※図示　・[表3.8.5]による　[3.8.3](13.6.3) ルーフドレインの製造所　評価名簿による　[3.8.2][表3.8.1]
	8 アルミニウム製笠木	[3.9.2][3.9.3][表3.9.1] 種類　板厚(mm)　表面処理　固定間隔　備考 ・100形　※1.5以上・　※A－1又は B－1種　※1.2.2【施工計画書】による品質計画で定める。　隣角並びに突出ため部等の役物は、本体製造所の仕様による。 ・250形　※2.2以上・ ・300形　※2.5以上・ ・360形　※3.0以上・ ・L　コーナー形
	9 防水工事施工票	※設置する　[2.1.2] ・設置しない
4-1 外壁・コンクリート打放し仕上げ外壁	① 施工数量調査	調査範囲　※躯体コンクリート面　・図示の範囲　[1.5.2] 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 浮き部分を壁面に表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 調査報告書の部数　※2部　・
	② ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法　[4.1.4][4.2.2][4.3.4] 注入工法の種類　ひび割れ幅(mm)　注入口間隔(mm)　注入口量(ml/m)　備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法　0.2以上～1.0未満　※200～300　※ ・手動式エポキシ樹脂注入工法　0.3以上～0.5未満　※50～100　※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法　0.5以上～1.0未満　※150～200　※130 注入材料　[4.2.2] ※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024　低粘度形又は中粘度形） 検査（コア抜取り）　※行わない　[4.3.4] ・行う（抜取り部の補修方法　　）
	③ 欠損部改修工法	・Uカットシールー材充填工法　[4.1.4][4.2.2][4.4.6] 充填材料　品質・規格等　備考 ・シーリング用材料　※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材　ポリマーセメントモルタルの充填　※行わない　・行う　製造所　評価名簿による ・可とう性エポキシ樹脂　評価名簿による ・シール工法　[4.1.4][4.2.2][4.4.7] シール材料　品質・規格等 ・パテ状エポキシ樹脂　評価名簿による ・可とう性エポキシ樹脂 ・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修（※シール工法の範囲　・　）　[4.4.2][4.6.3]
	④ 欠損部改修工法	※充填工法　[4.1.4][4.2.2][4.3.7] 充填材料　品質・規格等 ⊙エポキシ樹脂モルタル　評価名簿による ・ポリマーセメントモルタル ・
	① 施工数量調査	調査範囲　※既存モルタル面　・躯体コンクリート面　・図示の範囲　[1.5.2] 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 浮き部分を壁面に表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 調査報告書の部数　※2部　・ ・行う（・全面　・図示の範囲）　撤去の範囲は監督員と協議する。
	2 既存モルタル塗りの撤去	・既存モルタル撤去工法（範囲は図示　撤去部分の補修は、4．欠損部改修工法による） ※樹脂注入工法（※既存モルタル面　・既存コンクリート面）　[4.1.4][4.4.5] 注入工法の種類　ひび割れ幅(mm)　注入口間隔(mm)　注入口量(ml/m)　備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法　0.2以上～1.0未満　※200～300　※ ・手動式エポキシ樹脂注入工法　0.3以上～0.5未満　※50～100　※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法　0.5以上～1.0未満　※150～200　※130 注入材料　[4.2.2] ※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024　低粘度形又は中粘度形） 検査（コア抜取り）　※行わない　[4.3.4] ・行う（抜取り部の補修方法　　）
	③ ひび割れ部改修工法	・Uカットシール材充填工法　[4.1.4][4.2.2][4.6.3] 充填材料　品質・規格等　備考 ・シーリング用材料　※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材　樹脂薄塗モルタルの充填　行わない　⊙行う　製造所　評価名簿による ・可とう性エポキシ樹脂　評価名簿による ・シール工法　[4.1.4][4.2.2][4.3.6] シール材料　品質・規格等 ・パテ状エポキシ樹脂　評価名簿による ・可とう性エポキシ樹脂 ・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修（※シール工法の範囲　・　）　[4.4.2][4.6.3]
	④ 欠損部改修工法	既存モルタル面の欠損部　[4.1.4][4.2.2][4.3.7][4.4.8][4.4.9] 改修工法の種類　材料　品質・規格等 ⊙充填工法　ポリマーセメントモルタル　評価名簿による ・モルタル塗替え工法　[4.2.2(g)]によるモルタル　塗り厚25mmを超える場合の補強　※行う　・行わない　・図示 吸水調整材　製造所　評価名簿による　[4.2.2] 既成目地材　・適用する（形状　※図示　・　）　[4.2.2]
	⑤ 浮き部改修工法	[4.1.4][4.4.10～4.4.15][表4.4.3][表4.4.4] 改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）　アンカーピンの本数(本/㎡)　注入口の間隔(横目/㎡)　充填量 一般部　指定部　一般部　指定部　注入量 ・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法　※16　※25　※25ml ⊙アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法　※13　※20　※12　※20　※25ml ・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　※13　※20　※12　※20　※25ml　※50ml ・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法　※9　※16　※25ml ・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法　※9　※16　※9　※16　※25ml ・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　※9　※16　※9　※16　※50ml アンカーピン　[4.2.2] 材質　※ステンレス　SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン　[4.2.2] 材質　※ステンレス　SUS304、呼び径外径6mm ポリマーセメントスラリー　[4.2.2] 製造所　評価名簿による

工事名　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

特記仕様書（改修その1）

承認　設計　担当　図査

A-2

4-3 外壁改修工事・タイル張り仕上げ外壁

1 施工数量調査

調査範囲　※既存タイル面　・躯体コンクリート面　・図示の範囲　[1.5.2]

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

浮き部分を壁面に表示する。また、タイル張りの欠損部の形状寸法等を調査する。

コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。

調査報告書の部数　※２部　・

2 既存タイル張りの撤去

・外壁タイル張り全面　・図示の範囲

撤去範囲　・下地モルタルまで　・張付けモルタルまで　・タイルのみ

3 ひび割れ部改修工法

改修箇所　※既存タイル張り面

・既存タイル撤去面（・コンクリート面　・モルタル面）

※樹脂注入工法　[4.1.4][4.3.4][4.5.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入口盤(ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※ ・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40 ・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70 ・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～200	※130 ・	

注入材料　[4.2.2]

※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024　低粘度形又は中粘度形）

・

検査（コア抜取り）　※行わない　[4.3.4]

・行う（抜取り部の補修方法

・Uカットシール材充填工法　[4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.5.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※１成分形又は２成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う 製造所　評価名簿による
・可とう性エポキシ樹脂	評価名簿による	

4 欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法　[4.1.4][4.2.2][4.5.7]

接着剤の種類	品質・規格等
※ポリマーセメントモルタル	評価名簿による
・エポキシ樹脂	評価名簿による

・タイル張替え工法　[4.1.4][4.5.8]

伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地　[4.5.8][表4.5.1]

位置　※[表4.5.1]による　・図示

5 浮き部改修工法　[4.1.4][4.4.10]～[4.5.15][表4.4.3][表4.4.4]

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	アンカーピンの本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口の間隔数(箇所/m) 一般部	指定部	充填量 注入量
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25ml －
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml ※25ml
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml ※50ml
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25ml ・
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・
・注入口付アンカーピニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	・	・			※25ml

アンカーピン　[4.2.2]

材質　※ステンレス　SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

・

注入口付アンカーピン　[4.2.2]

材質　※ステンレス　SUS304、呼び径外径6mm

・

ポリマーセメントスラリー

製造所　評価名簿による　[4.2.2]

6 目地改修工法

・目地ひび割れ部改修工法　[4.1.4][4.5.16]

既製調合モルタル（目地材料）　[4.2.2]

製造所　評価名簿による

・伸縮目地改修工法　[4.1.4][4.5.15]

シーリング用材料　種類　※[表3.7.1]による・　[3.7.2][表3.7.1]

7 陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法、きじの質等　[4.2.2][4.5.7][4.5.8]

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ 磁器	陶器	陶器	無釉	施釉	施釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 注文	備考

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする。

タイルの見本焼き　※行わない　・行う

壁タイル張りの工法　[4.5.7][4.5.8][表4.5.3]

外装タイル　※密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り

・マスク張り　・モザイクタイル張り

タイルの試験張り　※行わない　・行う

既製調合モルタル（張付け用）　[4.2.2]

製造所　評価名簿による

4-4 外壁改修工事・塗り仕上げ外壁

① 施工数量調査

調査範囲　※塗り仕上げ面　・図示の範囲　[1.5.2]

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流失の有無を調査する。

コンクリートまたは、モルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。

仕上げ塗材等の劣化部分、はく落部分等を壁面に表示する。

既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

調査報告書の部数　※２部

② 既存塗膜等の除去及び下地処理

既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法　[4.6.3][表4.6.1～表4.6.4]

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	※パラペットあご下面の防水　◎ 図示	①ひび割れ部改修工法
◎高圧水洗工法	※既存仕上面全体　・	②浮き部改修工法
・後擦はく離剤工法	※既存仕上面全体　・	③欠損部改修工法
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・	

塗膜はく離剤　[4.2.2]

製造所

③ 下地調整材

※下地調整材　[4.2.2][4.6.3]

・ポリマーセメントモルタル

製造所　評価名簿による

・防水形仕上げ塗材主材を使用

④ 仕上げ塗材仕上げ

種類、仕上げの形状、工法　[4.1.4][4.2.2][表4.2.3][表4.2.4]

種類	呼び名	仕上げの形状等	
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状	◎着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状	・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状	・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・スタッコ状	・打放し凸部処理 ・ひき起し凸部処理
	・外装厚塗材Ｅ	・スタッコ状	・打放し凸部処理
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状	・凸部処理　・凹凸処理
	・可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　※耐候形1種	・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材	
	・複層塗材Ｅ	溶媒　※水系	・溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	樹脂　・　アクリルシリコン	
	・複層塗材ＲＳ	外観　※つやあり	・つやなし
	・防水形複層塗材ＣＥ	・メタリック	
	・防水形複層塗材Ｅ	防水形の増塗材　※行う	・行わない
	・防水形複層塗材ＲＳ		

・　製造所　評価名簿による　[4.2.2]

防火材料　・建築基準法に基づく基材同等の認定を受けた材料とする。

5 建具改修工事

1 改修工法　・かぶせ工法　・撤去工法　[5.1.3]

2 見本の製作等　・特殊な建具の仮組み（建具番号　）　[5.1.5]

3 アルミニウム製建具

外部に面する建具　[5.2.2][表5.2.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
※Ａ種	Ｓ－４	・Ａ－３	・Ｗ－４	・70	
・Ｂ種	Ｓ－５	・	・	・	
・Ｃ種	Ｓ－８	・Ａ－４	・Ｗ－５	・100 ・	

表面処理　※Ｂ－１　[5.2.4][表5.2.2]

・Ｂ－２（　ブラウン系　・ブラック系　◎ シルバー　）

・　・ステンカラー

屋内建具

表面処理　※Ｃ－１又はＢ－１　[5.2.4][表5.2.2]

・Ｃ－２又はＢ－２（※ブラウン系　・ブラック系　・ステンカラー）

・

製品の寸法許容差

※JIS A 4702（ドアセット）又はJIS A 4706（サッシ）による　[5.2.4]

◎製造所標準製作規定寸法許容差による

4 網戸

防虫網

網の種別　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製　・合成樹脂製

形　式　※外部可動式　・固定式

⑤ 鋼製建具

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値　[5.3.2][表5.3.1]

※適用する（適用箇所は建具表による）　・適用しない

製品の寸法許容差　[5.3.4]

※JIS A 4702（ドアセット）又はJIS A 4706（サッシ）による

・製造所標準製作規定寸法許容差による

6 鋼製軽量建具

品質規格

※建築工事共通仕様書による

・製造所標準仕様による

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値　[5.4.2]

※適用する（適用箇所は建具表による）　・適用しない

7 鋼製軽量自閉装置付引き戸

品質規格　※製造所標準仕様による

製造所　評価名簿による

8 ステンレス製建具

製品の許容寸法差　[5.5.4]

※JIS A 4702（ドアセット）又はJIS A 4706（サッシ）による

・製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ　[5.5.4]

曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強有り）　[5.5.5]

⑨ 建具用金物

マスターキー　・製作する　・製作しない　[5.6.4]

建具金物の種類　◎ 建具表参照　[5.6.2][表5.6.2]

種類	品質・規格
・モノロック	評価名簿による
・本締まり付きモノロック	
・シリンダ箱錠	
・シリンダ本締まり錠	
・ドアクローザー	
・棒錠錠	
・ピボットヒンジ	
・ヒンジクローザー	評価名簿による
・フロアヒンジ	

10 自動ドア開閉装置　[5.7.3][表5.7.3]

開閉方法	センサの種類		
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ ・光線スイッチ ・熱線スイッチ	・電子マットスイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ	・タッチスイッチ ・ペダルスイッチ ・押しボタンスイッチ

11 自閉式上吊り引戸設置　製造所

⑫ 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　）　鏡板（　）　(16.7.2)

ふすまの上張り　・新島の手程度又はビニル紙　・鳥の子　(表16.7.3)

合板類のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆　・

ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆　・

13 重量シャッター

開閉形式　※上部電動式（手動併用）　・手動式　[5.9.2][表5.9.1]

一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　[5.9.2]

耐風圧性能　強さによる区分　・５０　・８０　・１２０

14 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　[5.10.2][表5.10.1]

スラットの材質　※後錆溶融亜鉛めっき鋼板　・　[5.10.3]

スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形　[5.10.4]

ガイドレール等　・鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.6mm）　[表5.10.2]

耐風圧性能　強さによる区分　・５０　・６５　・８０

15 オーバーヘッドドア

セクション材　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　[5.11.2][5.11.3]

・ファイバーグラスタイプ

開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式　[5.11.2]

収納形式　・スタンダード形　・ローヘッド形　[5.11.2]

・ハイリフト形　・バーチカル形

ガイドレール　※溶融亜鉛めっき鋼板製　・ステンレス製SUS304　[5.11.3][表5.11.1]

⑯ ガラス

下記以外は建具表による。

・フロート板ガラス　[5.12.2]

品種	品種及び厚さ
・フロートガラス	５ｍｍ
・磨き板ガラス	５ｍｍ

・型板ガラス

品種	品種及び厚さ
・型板ガラス	4.0mm

・網入り板ガラス及び線入り板ガラス

品種	品種及び厚さ
・網入磨きガラス	６．８ｍｍ
・線入板ガラス	６．８ｍｍ

・合わせガラス

品種	構成種類
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類
・フロート強化ガラス	・フロート板強化ガラス
	・熱線吸収板強化ガラス
・型板強化ガラス	・型板強化ガラス

・熱線吸収板ガラス

品種	色調
・熱線吸収フロート板ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ
・熱線吸収網入磨き板ガラス	・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス

品種	板ガラスの組み合わせ
・断熱複層ガラス	
・日射熱遮へい複層ガラス	

・熱線反射ガラス

品質	反射皮膜面	色調	映像調整
・熱線反射ガラス	・内面　・外面	・ブルー　・グレー ・ブロンズ　・シルバー	・行わない ・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類	色調
・フロート倍強度ガラス	
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

・ガラスブロック　品質　JIS A5212による

寸法(mm)	色調	パターン	防火認定
	・クリア　・熱線反射 ・乳白　・カラー（　）		・網し ・乙種防火戸

・ガラスとめ材　[5.12.2][表3.7.1]

建具の種類	材種
アルミニウム製	・シーリング材　※ガスケット（ＦＩＸ部材はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。

・ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能等
・ガラス飛散防止フィルム	第２種	・内張り　・外張り	飛散防止率　Ｄ１
・		・	

品質　JIS A5759による

17 危害防止機構　[5.9.2][5.10.2][5.11.2]

感知器からの信号を受けて自動的に閉鎖する防火または防煙シャッターには、「防火シャッター閉鎖作動時の危害防止ガイドライン」（（社）日本シャッター工業会　平成１０年１０月）における危害防止機構として、当該シャッター最下部の底板に設置する感知板が人に接触すると同時に閉鎖動作を停止させ、その後、人がいなくなった時に再び降下を開始し、完全に閉鎖させるよう自動閉鎖装置へ信号を送る障害物感知装置を設ける。ただし、吹き抜けに面する等、シャッター降下中のくぐり抜け行動が想定されないものは除く。

危害防止機構の不設置箇所　※図示

6 内装改修工事

① 改修範囲

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲　[6.1.3]

※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲　[6.1.3]

※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修　[6.1.3]

※既存のまま

・図示の範囲

2 既存床の撤去、下地補修

ビニル床シート等の除去　※仕上げ材のみ（接着剤とも）　[6.2.2]

・接着剤にアスベストを含む　・下地モルタルとも（※図示の範囲　・除去範囲全て）

合成樹脂塗り床材の除去工法　・機械的除去工法　・目荒工法　[6.2.2]

改修後の床の清掃範囲　※改修施所の室内　・　[6.2.2]

搬入経路及び物置の除去した箇所全て

③ 既存壁の撤去、下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修　[6.3.2][4.4.9]

※図示

・モルタル塗り（塗り厚25mmを超える場合の補修　※行う　・行わない）

4 木下地等

木材の品質　※[6.5.2]による　・市販品　[6.5.2][表6.5.2][表6.5.3]

代用樹種　※[表6.5.4]による　〃　[6.5.2][表6.5.4]

・代用樹種を適用しない箇所（　）

防ぎ処理　※行わない　・行う（箇所　）　[6.5.2]

下地合板のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・Ｆ☆☆☆

5 集成材　[6.5.2]

品名	規格・品質	心材の樹種		化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	・	・	・
・構造用集成材	※１等　・２等	・		
・造作用集成材	※１等　・２等	・		
・化粧ばり造作用集成材	※１等　・２等	・		・

⑥ 接着剤

※木工事に使用する接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性（沸点３００℃以上）とする。

※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤、壁紙施工用でんぷん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量Ｆ☆☆☆☆で水溶液形とし、接着剤に含まれる可塑剤は難揮発性（沸点３００℃以上）のものとする。

7 木材保存材

木材保存剤（木材の防腐・防蟻処理）はクロロピリホス、ダイアノシン及びフェノルカルブを含有しない非有機リン系とする。ただし、クレオソート油木材防腐剤及びクロム・銅ヒ素化合物系木材防腐剤（ＣＣＡ）は除く。

防腐・防蟻処理の方法

工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。

ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布することとする。

8 床板張り

フローリング及び綾甲板張り床

下張り用床板　※無し

・有り（※合板張り（ホルムアルデヒド放散量※Ｆ☆☆☆☆　・Ｆ☆☆☆）

・板張り）

床板　※単層フローリング

（[6.11.2]ホルムアルデヒド放散量※Ｆ☆☆☆☆　・Ｆ☆☆☆による）

・綾甲板（※ひのき　・　）

⑨ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　[6.6.2][表6.6.1]

屋外（・19型　※25型）　屋内（※19型　・25型）

既存の埋め込みインサート　・使用する　・使用しない　[6.6.4]

あと施工アンカーの引抜き試験　・行う　・行わない　[6.6.4]

10 ビニル床シート張り　[6.6.2][6.6.3]

種類	記号	色柄	厚さ(mm)
※発泡層のないもの	※ＮＣ　・	※無地　・マーブル柄	※2.5
・発泡層のあるもの		※柄物　・無地	
・			
・			

工法　・熱溶接工法　・突付け（施工箇所　）　[6.8.3]

11 ビニル床タイル張り　[6.6.2]

種類	記号	厚さ(mm)	備考
・コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＣＴ	※2	
・コンポジションビニル床タイル（軟　質）	ＣＴＳ	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	ＨＴ	・	
・			

12 帯電防止床タイル　[6.8.2]

種類	厚さ(mm)	性能
・コンポジションビニル床タイル	※2	体積抵抗値（JIS K6911による） 1.0×10^{5} Ω以下、または、
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.6	漏えい抵抗値（JIS A1454による） 1.0×10^{10} Ω以下
・	・	

13 誘導用、注意喚起用床材

視覚障害者用タイル　[6.8.2]

種類	寸法(mm)	施工箇所
・塩化ビニル系	※300×300	
・レジンコンクリート系	・	
・磁器又はせっ器タイル		

⑭ ビニル幅木

厚さ(mm)　※1.5以上　・

高さ(mm)　・60　◎ 75　・100　[6.8.2]

15 合成樹脂塗り床　[6.10.2][6.10.3][表6.10.3～表6.10.7]

種類	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	・薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

16 フローリング張り　[6.11.2～6.11.7][表6.11.1～表6.11.4]

種別	材種	工法	仕上塗装	ホルムアルデヒド放散量
※天然木化粧複合フローリング	・桜（材種：広葉樹） ・　なら ・ひのき	・　接着工法 ※釘どめ工法（Ｃ種）	※有 ・無 ※有 ・無	※Ｆ☆☆☆☆ ・Ｆ☆☆☆ ※Ｆ☆☆☆☆ ・Ｆ☆☆☆

工事名　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

特記仕様書（改修その２）

承認	設計	担当	審査

[redacted]

A-3

⑦塗装改修工事

17 畳敷き

[6.12.2][表6.5.9][表6.12.1]

下地の種類	畳の種別
[表6.5.9]による床組	・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
ポリスチレンホーム床下地	※Ｃ種　・Ｄ種

18 カーペット敷き

・敷じゅうたん　[6.9.2][6.9.3][表6.9.1][表6.9.2]

種別	パイル形状	色柄	帯電性	備考
・Ａ種	・カットパイル	・単一色（無地）	人体帯電圧	
・Ｂ種	・ループパイル	・柄物（標準品）	※3Kv以下	
・Ｃ種	・カット、ループ併用		・	

・タフテッドカーペット　[6.9.2][6.9.3][表6.9.2]

パイル形状	パイル長(mm)	工法	帯電性
・カットパイル	※5～7　・	※全面接着工法	人体帯電圧
・マルチレベルループ	※4～6　・	・グリッパー工法	※3Kv以下
・レベルループパイル	※4		・
・カット、ループ併用	・		

・タイルカーペット　[6.9.2][6.9.3][表6.9.2]

パイル形状	種別	電気抵抗値（Ω）
※ループパイル	※１種　・	※適用しない　・10^8Ω以下
・カットパイル	・	

⑲ せっこうボード その他ボード張り

[6.13.2][表6.13.1]

種類	記号	厚さ（mm）、規格等
・難燃木毛セメント板	―	・15　・20　・25　・
・断熱木毛セメント板	―	・15　・20　・25　・
㊀ケイ酸カルシウム板	０．８ＦＫ	タイプ２（無石綿）
・ロックウール化粧吸音板	ＤＲ	※フラットタイプ（※9　・12　・　） ・凹凸タイプ（※12　・16　・19　・　）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）		※フラットタイプ9 ・凹凸タイプ（※12　・15）
㊀せっこうボード	ＧＢ－Ｒ	９．５　12.5
・不燃積層せっこうボード	ＧＢ－ＮＣ	９．５　化粧無（下張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	ＧＢ－Ｓ	９．５　12.5
・強化せっこうボード	ＧＢ－Ｆ	12.5　15.0
・せっこうラスボード	ＧＢ－Ｌ	９．５
・化粧せっこうボード（木目）	ＧＢ－Ｄ	12.5 幅440程度 模様（※柾目　・板目）専用下地材付き
・メラミン樹脂化粧板		ＪＩＳ Ｋ6903による厚さ1.2
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	ＭＤＦ	ホルムアルデヒド放散量
・パーティクルボード		※Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆
㊀・硬質せっこうボード	ＧＢ－Ｒ	９．５　12.5
・		

合板のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材　[6.13.2][表3.6.1]

・アクリル系シーリング材

・ジョイントコンパウンド

20 吸音材

[表6.13.1]

種類	記号	厚さ(mm)
・ロックウール吸音ボード１号	ＲＷ－Ｂ	※25　・
・ロックウール吸音ボード２号３２Ｋ	ＧＷ－Ｂ	※25　・
・		・

21 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆

施工箇所	壁紙の種類 紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質	防火性能の級別	品質等
	・	・	・	・	・	※１級　・級	
	・	・	・	・	・	※１級　・級	
	・	・	・	・	・	・※１級　・級	
	・	・	・	・	・	・※１級　・級	
	・	・	・	・	・	・※１級　・級	

モルタル、プラスター面の下地調整　[6.14.3][表7.2.4]

・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種

せっこうボード面の下地調整　[6.14.3][表7.2.7]

・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種

ホルムアルデヒドの放散量等が「生活環境の安全に配慮したインテリア材料に関するガイドライン（ＩＳＭ）」あるいは、それと同等の基準、性能に適合するもの

22 モルタル塗り材料

吸水調整材　[6.15.3]

製造所　評価名簿による

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤）

製造所　※監督員の承諾する製造所

既成目地材　※適用しない　・適用する　[6.15.3]

23 陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法、きじの質等　[6.16.3]

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ 磁器	せっ器	陶器	施釉	無釉	施釉	有	無	色 標準	注文	備考

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする。

タイルの見本焼き　※行わない　・行う

壁タイル張りの工法　[6.16.5][表6.16.7]

内装タイル　・壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り

タイルの試験張り　・行わない　・行う

既成調合モルタル（張付け用）　[6.16.3]

製造所　評価名簿による

24 木工事

① 材料

※屋内の壁及び天井仕上げ材は防火材料又は建築基準法に基づく基材問等の認定表示のあるものとする。

※屋内に用いる塗料は、ホルマリン不検出のもので水性系（（社）日本塗料工業会基準による「ＶＯＣ１％以下の製品」同等品）で※Ｆ☆☆☆☆とする。

塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥期間をとるとともに施工時、施工後の通風換気を十分に行い、室内に発散した化学物質を室外に放出させる。

㊀植物油塗料の使用　・種類　・施工個所

◯リボスカラー　（青色オイル+保護オイル）

ＯＳＭＯカラー　（#4006+ウッドワックス+#3101/ノーマルクリアー）施工はマイスタークラブ会員による。

ＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲　[7.2.1][表7.2.1～表7.2.7]

㊀図示　※塗り替え面積の30%程度

下地の種類	下地調整の種別
㊀木部	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀鉄面	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀・亜鉛めっき面	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀モルタル面及びプラスター面	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀コンクリート及びＡＬＣパネル面	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀コンクリート及び押出成形セメント板	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種
㊀せっこうボード及びその他ボード面	・ＲＡ種　※ＲＢ種　・ＲＣ種

② 下地調整

③ 錆止め塗料塗り

・非鉛、非クロム系の錆止め塗料使用　・種類

・水性形錆止め塗料を使用　・種類　・施工個所

[7.3.3][表7.3.3～表7.3.4]

下地の種類	種別
㊀鉄面	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種
㊀亜鉛めっき面	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種

④ 合成樹脂調合ペイント塗り

[7.4.3～7.4.5][表7.4.1～表7.4.3]

下地の種類	新規		塗替え		
㊀木部	※Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種	・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種
㊀鉄面	・Ａ種	・Ｂ種		・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種
㊀亜鉛めっき面	※Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種	・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種
（鋼製建具の場合）	・Ａ種	※Ｂ種	・Ｃ種	※Ａ種	・Ｂ種　・Ｃ種

⑤ フタル酸樹脂エナメル塗り

[7.5.2][7.5.3][表7.5.1][表7.5.2]

下地の種類	新規		塗替え		
・木部	・Ａ種	・Ｂ種		・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種
・鉄面	・Ａ種	・Ｂ種		・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種
・亜鉛めっき面	・Ａ種	・Ｂ種		・Ａ種	※Ｂ種　・Ｃ種

⑥ 塩化ビニル樹脂エナメルル塗り

[7.6.3][表7.6.2]

新規		塗替え		
・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種	・Ｃ種

⑦ アクリル樹脂エナメル塗り

[7.7.3][表7.7.1]

新規		塗替え		
・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種	・Ｃ種

⑧ ２液形ポリウレタンエナメル塗り

[7.8.2～7.8.4][表7.8.1～表7.8.3]

下地の種類	新規		塗替え	
・鉄面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種
・亜鉛めっき面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種

⑨ アクリルシリコン樹脂エナメル塗り

[7.9.2～7.9.4][表7.9.1～表7.9.3]

下地の種類	新規		塗替え	
・鉄面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種
㊀亜鉛めっき面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種

10 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り

[7.10.2～7.10.4][表7.10.1～表7.10.3]

下地の種類	新規		塗替え	
・鉄面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種
・亜鉛めっき面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	・Ｂ種

11 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り

[7.11.2][表7.11.1]

新規		塗替え		
・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種	・Ｃ種

⑫ 合成樹脂エマルションペイント塗り

[7.12.2][表7.12.1]

新規		塗替え		
・Ａ種	・Ｂ種	・Ａ種	※Ｂ種	・Ｃ種

㊀・エコフレッシュクリーン　㊀・資材製造所　エスケー化研株式会社　（参考メーカー）

㊟ 下塗り：エコフレッシュシーラー

13 多彩模様塗料塗り

・Ａ種　※Ｂ種　[7.13.3][表7.13.2]

14 合成樹脂エマルション模様塗料塗り

[7.14.2][表7.14.1]

新規		塗替え			
		既成塗膜	下地調整	種別	
・Ａ種	・Ｂ種	合成樹脂エマルション模様塗料塗り	・ＲＢ種	※Ａ種	
			・ＲＣ種	※Ｃ－３種	
		平滑な塗料塗り	・ＲＢ種	・Ａ種	・Ｂ種
			・ＲＣ種	・Ｃ－１	・Ｃ－２種

⑮ ウレタン樹脂ワニス塗り

・Ａ種　※Ｂ種　[7.15.2][表7.15.1]

8 鉄筋工事

1 鉄筋

鉄筋の種類　[8.2.1][表8.2.1]

規格	種別	呼び名
※ＪＩＳ Ｇ3112 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用鋼棒	・ＳＤ２９５Ａ	
	・ＳＤ３４５	
	・ＳＤ３９０	
	・	

※ミルシートを提出のこと

※アンカー筋の頭部はネジ切り加工し、ナット取付けのこと。

※頭付きスタッドは、ＪＩＳＢ1198に規定されている規格品とする。

※頭付スタッド（溶接部の曲げ試験）

曲げ試験は、１辺につき１本の試験を行う。

曲げ試験は、頭付スタッドの角度が垂直から15°になるまで、ハンマー又はその他適当な方法で曲げる。

曲げ方法は、溶接部外観に欠陥がある場合、その部分に最大引張力がかかるように曲げる。

2 溶接金網

[8.2.2]

規格	網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)
ＪＩＳ Ｇ3551	※100	※6
	・	・

3 鉄筋の継手

[8.3.4]

継手方法	呼び名	適用箇所
・ガス圧接		
・重ね継手		
・		

4 鉄筋及び溶接金網の最少かぶり厚さ

鉄筋及び溶接金網の最少かぶり厚さは、目地底から算定する。　[8.3.5][表8.3.5]

・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最少かぶり厚さは下表による。

施工箇所	※[表8.3.5]の他に加える寸法
柱、梁、壁及び底などの外気に接する打ち放し面	※１０

5 各部の配筋

柱の配筋

帯筋の組立の形の種別　[8.3.4][図8.3.3]

・Ｈ型　・Ｗ－Ⅰ形　※Ｗ－Ⅲ形

柱の打増し補強　(別図.2.3)(別図.図2.4)

※図示　・建築工事共通仕様書　(別図.図2.4)による

梁の配筋

梁の打増し補強　(別図.3.3)(別図.図3.11)

※図示　・建築工事共通仕様書　(別図.図3.11)による

壁の配筋

壁の配筋の定着長さ　[8.3.7]

※図示　・

壁の配筋の種別　[8.3.7][表8.3.6]

※図示　・[表8.3.6]による

一般壁の開口部補強　[8.3.8][表8.3.7](5.7.2)(表5.7.3)

※Ａ形　・Ｂ形　・図示

耐震壁の開口部補強　[8.3.8][表8.3.7]

※Ｂ形　・図示

スラブの配筋　(別図.5.3)(別図.図5.8)

スラブ開口部の補強

※建築工事共通仕様書　(別図.図5.8)による　・図示

6 ガス圧接

圧接完了後の検査　[8.3.9]

※超音波探傷試験　・引張試験

7 コンクリートの種類及び強度

レディーミクストコンクリートの種別　[8.1.3][表8.1.1]

※Ⅰ類　・Ⅱ類

普通コンクリートの設計基準強度　[8.1.3]

設計基準強度Ｆｏ (N/mm²)	適用箇所
※２１	和式便器改修部
・	

軽量コンクリートの設計基準強度　[8.9.1][表8.9.1]

設計基準強度Ｆｏ (N/mm²)	気乾単位容積質量 (t/m³)	種別	適用箇所
※２１			便所内防水層押え
・			

気温によるコンクリート強度の補正　[8.4.5][表8.4.1]

※補正値　T=3　(　月　日～　月　日、　月　日～　月　日)

T=6　(　月　日～　月　日)

8 コンクリートの品質

スランプ　[8.1.4]

スランプ(cm)	適用箇所
※１８	
・	

9 普通コンクリート

セメントの種類　[8.2.5]

※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種

普通ポルトランドセメントは、JIS R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	
	７ｄ　３５２Ｊ／ｇ以下
	２８ｄ　４０２Ｊ／ｇ以下

・高炉セメントＢ種　(6.16.2)

混和材料の種類　[8.2.5][8.4.8]

※混和剤

・混和材

10 モルタル及びグラウト材

柱底等の均しモルタル　[8.2.10]

・[8.2.10]による

※無収縮モルタル

製造所　評価名簿による

グラウト材　[8.2.10]

※無収縮グラウト材

製造所　評価名簿による

11 高い強度のコンクリート

設計基準強度［Ｎ／ｍｍ²］　[8.8.1][8.5.4]

・27　・30　・33　・36

混和材料　[8.8.3]

※混和剤

※高性能ＡＥ減水剤標準形又は遅延形（JIS　A6204）

・

12 型枠

せき板の材料　[8.2.6]

※複合合板　・合板

せき板の材料として合板を用いる場合

※厚さ12mm　・

スリーブに用いる材料　[8.2.6][表8.2.4]

※[8.2.6]による　・

13 鉄骨製作所

・監督員の承諾する製作工場

※国土交通大臣認定工場

グレード　・Ｒ　・Ｍ　・Ｈ　・Ｓ

施工管理技術者　※適用する

14 施工管理技術者

鉄骨製作管理技術者

※適用する　・

15 鋼材

鋼材の種類　[8.2.7][表8.2.5]

種類の記号	適用箇所	規格等
ＳＴＫ400	Ｂ工区男子便所の此柱	※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による

16 高力ボルト

高力ボルトの適用　[8.2.8]

※トルシア形高力ボルト　・ＪＩＳ形高力ボルト　・溶融亜鉛メッキ高力ボルト

17 鉄骨工作

仮組

・実施する　※実施しない

18 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　[8.13.11][8.13.12]

※行う　・行わない

※鋼材の溶接部分については、日本建築学会の鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準（JIS2360基準）に規定する検査を行う。検査者はＣＩＷ認定事業者とする。

検査は、突合せ溶接部分30%以上について行うこと。

工場内部検査は、100%行うこと。

19 錆止め塗料の種別

耐火被覆材の接着する前の塗装　[8.15.3]

・行う　※行わない

・種類

・非鉛、非クロム系の錆止め塗料を使用（・種類　）

20 耐火被覆材

種別　[8.16.2]～[8.16.6]

・ラス張りモルタル塗り　・耐火吹き付け　・耐火板張り

所要性能（区分）

・30分耐火　・１時間耐火　・２時間耐火

21 既存コンクリート面の目荒らし

適用範囲　[8.18.3][8.19.3]

※既存コンクリートとの打継ぎ面

※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材充てん部の接合面

・

目荒らしの範囲

※柱・梁面　打継ぎ面又は接合面全面の３／４以上

※壁面　打継ぎ面又は接合面全面の１／３程度

・

目荒らしの程度

※平均深さ５～１０mm（最大深さ１０～１５mm）程度の凹部を施す。

22 あと施工アンカーの材料

あと施工アンカーの材料　[8.2.4]

※接着系アンカー

接着剤の材質及びカプセルの種類　※有機系

接合筋の種類　※鉄筋コンクリート用棒鋼

製造所

※カプセル型樹脂接着アンカー（全打数管確認）

※カプセル型樹脂接着アンカー（引張試験）

引張試験は、各階ブレース１枚当たり１本の試験を行う。

場所は梁上端で行い、下記の張力を確認する。

（地中梁は、増しコンクリート打設前に地中梁上端で行う。）

径	確認張力	備考
Ｄ２２	(　　)Ｎ	
Ｄ１９	(　　)Ｎ	
Ｄ１６	(　　)Ｎ	

23 あと施工アンカーの施工

穿孔前の埋込み配管等の探査　[8.10.2]

範囲

※あと施工アンカー施工部分全て　・図示

方法

※探査器により探査し、配管等の位置の墨出しを行う　・はつり出しによる

24 コンクリートの打込み

打込みの工法の種類　[8.18.8]

・流込み工法　・圧入工法

25 柱補強

溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法　[8.20.5]

柱鞘柱脚の隙間部開の型枠

ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む　・図示

26 連続繊維シート

材料・形状　[8.2.11]

採用した工法の規定を満足するもの

材質

引張り強度（含浸硬化後）

・２５００Ｎ/mm² 以上

・３０００Ｎ/mm² 以上

ヤング係数（含浸硬化後）

・２．３５×10^5 Ｎ/mm² 程度

・２．００×10^5 Ｎ/mm² 以上

工法　[8.20.7]

※（財）日本建築防災協会の評価を受けた工法

・

下地調整　[8.20.7]

仕上げモルタルの除去

※行う　・行わない

柱隅角部の面取り　[8.20.7]

※工法の評価内容による

27 スリットの施工

スリット部の配管等の探査　[8.21.2]

・探査器により探査し、配管等の位置の墨出しを行う　・はつり出しによる

工事名　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

特記仕様書（改修その３）

[redacted]

承認	設計	担当	照査

A-4

28　撤去工事の施工内容

※耐震壁等の増設に伴い、これらの増設部材が設置される躯面内既存仕上げ・躯体の撤去と土間等の一部を撤去する。
※増設部材と接する既存コンクリート面は充分に目荒らしを行う。
※塗り仕上げ又はこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、カッターで切込みを付けてから撤去する。
　なお、躯体を撤去する場合は、両面からカッター切込みを付けてから撤去する。
※撤去に際しては、廃棄物の処理に関する法律に準拠する。

29　撤去工事における注意事項

※コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、既存部分の仕上げに損傷を与えないよう充分注意する。特に塗り仕上げ、増設部材設置躯面内の壁コンクリート及び土間コンクリート等の撤去に際しては、ｶｯﾀｰ等で切込みを付け、既存部分の保護を図る。
※増設する部材に接する既存コンクリートは、充分に目荒らしを行い増設部材との一体化を図る。なお、目荒らしは、深さ6mm程度の凹凸で全体を覆らすようにする。
　はつり工事は構造躯体に悪影響を与えない方法で丁寧に行うこと。(電気ﾋﾟｯｸを用いる等)
※コンクリート打設前に粉塵、はつりがら等を清掃し、散日前から充分に水湿めを行う。
※既存の躯体状態の確認及び補修

・石膏ボードについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等に従い、原形のまま運搬し管理型最終処分場で処分相ること。
・石綿スレート、フレキシブルボード等石綿製品の撤去にあたっては、関係法令に従い、部材が破損しないように手はずして行い、原形のまま運搬処分すること。
・以下の天井材の撤去にあたっては、ボードが破損しないように、手はずして行うこと。

・床：ビニアス系タイルの撤去にあたっては、関係法令に従い部材が破損しないように湿潤後、手はずして行い、原形のまま飛散防止をし運搬処分すること。

9　環境配慮（グリーン）改修工事

①　アスベスト含有建材の除去

※　県仕様　　・建築改修工事共通仕様書（　年版）
県仕様は以下のとおり

①　一般事項

①　事前調査　※　適用しない　　・　適用する
施工に先立ち、解体撤去工事を行う次の建材について、それぞれ１検体を採取し、第三者測定機関によるアスベスト含有の有無を検査し、速やかに監督員に報告すること。
対象建材

②　適用範囲
吹き付けアスベスト・保温材以外の非飛散性アスベスト含有建材（以下「アスベスト成形板」という。）除去についての適用範囲は下記のとおりとする。
①　建設物等の解体、改修工事にともない、アスベスト成形板を除去する場合で、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築改修工事共通仕様書に記載されていない事項は、この特記仕様書による。
②　建築設備の解体・改修工事にともない、アスベスト成形板を除去する場合は、建築改修工事共通仕様書に記載されている事項を適用し、記載されていない事項は、この特記仕様書による。
　なお、施工方法により飛散の恐れがない場合は適用しない。
適用ヶ所

③　特定化学物質等作業主任者
アスベスト成形板の除去作業にあたっては、特定化学物質等作業主任者を選任し、資格証明書の写し及び工事経歴書を添付した書面により監督員に届け出る。
アスベスト成形板の除去作業は、選任された特定化学物質等作業主任者の指揮のもとに行う。また、除去作業者に対しては事前にアスベストに関する教育を行い十分に理解させる。

④　撤去作業者
アスベスト成形板の除去作業者は、６ヶ月以内にアスベストについての特殊健康診断（特定化学物質等障害予防規則第３９条）を受診した者とし、除去作業者名簿を、監督員に提出する。

2　工事施工

1　アスベストの飛散状況の監視
アスベスト粉じんの飛散状況の監視は、次により行う。
（※印の項目を適用する。○印がある場合は、○印を優先する。）
※　目視による監視を行う。
・　第三者測定機関による浮遊アスベスト濃度測定を行う。第三者測定機関は、作業環境測定法により認定された検査機関とする。

測定場所	作　業　前	作　業　中	作　業　後
作業箇所			
噴き出し口			
外　部			

2　作業場所の掲示
区画した作業区域には、特定化学物質等障害予防規則第３８条の３による掲示を行うと共に、「アスベスト等の取扱い作業者以外立入禁止」の表示を行う。

3　除去作業中の換気
除去作業中はＨＥＰＡフィルタ付きの換気装置で常に換気し、作業区間内の粉じん量を抑制する。

4　除去作業場所の清掃及び片付け
区画、養生に使用したシート等は、適当な大きさにしたうえ、表面を内側にして折り畳み、プラスチック袋に入れて密封する。

5　飛散防止剤の塗布
接着されたアスベスト成形板の除去面は、必要に応じ飛散防止剤を塗布し、残存アスベストの飛散を防止する。

10-1　その他改修工事・鉄筋工事

1　鉄筋の種別　(5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名（mm）
・SD345	
・SD295A	D10、D13
・	
・	

2　鉄筋の継手　呼び名１９mm以上の柱、梁の主筋　※ガス圧接　・重ね継手　(5.3.1)(表5.3.1)

3　鉄筋の最小かぶり厚さ　※最小かぶり厚さは目地底から算定する。(5.3.2)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	表５．３．６に値に加える寸法（mm）
柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※１０

4　既製コンクリート杭の杭頭補強　・Ａ形　※Ｂ形　・国示　(別図1.1)

5　帯筋　※Ｈ形（ロは除く）　・　・　(別図2.2)

6　最上階柱脚補強　※行う・行わない

7　壁開口部の補強　一般壁　※Ａ形　・Ｂ形　・国示　(別図表4.3)(別図表4.4)
耐震壁　※Ｂ形　・国示

8　梁貫通孔の補強形式　※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　(別図7.1)(別図表7.1～別図表7.3)
・建設技術評価規定（昭和53年建設省告示976号）又は(財)日本建築センターの評価品

9　圧接完了後の試験　※超音波探傷試験　・引張試験　(5.4.9)

10-2　その他改修工事・コンクリート工事

1　レディーミクストコンクリートの種別　※１類　・Ⅱ類　(表6.1.1)

2　セメントの種類　※普通ポルトランドセメント又は混合セメントＡ種　(6.3.2)(6.16.2)
・高炉セメントＢ種
普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳＲ５２１０に示された規定の他、次の規定に適合しなければならない。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7d	352J/g以下
	28d	402J/g以下

3　骨材の品質　※Ａ（アルカリ骨材反応抑制対策（建築物）実施要領（営繕部）による）　(6.3.3)(6.5.4)
・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Ｒｔ＝３．０ｋｇ／ｍ3以下）

4　混和材料の種別　※混和剤　・混和材　(6.3.5)

5　普通コンクリートの設計基準強度　(6.1.4)

設計基準強度Fo（Ｎ／ｍｍ²）	施工箇所
※２１	基礎、柱、梁、床、壁
※１８	捨てコン

6　型枠（せき板）の種別　塗装の有無　※無　・有　(6.9.3)
材料　※複合合板　・合板　・針葉樹合板（使用箇所：　　）
厚さ　※１２ｍｍ　・

7　せき板面の気泡緩衝材張り（ＭＣＲ工法）　気泡緩衝材の種別　※難燃性ポリエチレン気泡シート
コンクリートの増打ち厚さ　※１０mm
施工箇所　※国示　・

8　気温によるコンクリート強度補正　※補正値　Ｔ＝３（　月　日～　月　日、月　日～　月　日）　(6.4.5)
Ｔ＝６（　月　日～　月　日）

11　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の室内濃度の測定

①　室内濃度の測定

※　測定する　　・測定しない
測定する場合は以下による

①　測定室
測定室は、監督員の指定する室（　　室）とする。
ただし、改修工事にあっては、当該室の工事着手前にも測定するものとする。

2　検査項目、検査方法及び判定基準
1）検査項目、以下ア）～ウ）の5品目とするが、
　学校以外の作業等はア）～カ）の６品目とする。
　㋐　ホルムアルデヒド
　㋑　トルエン
　㋒　キシレン
　㋓　パラクロロベンゼン
　㋔　エチルベンゼン
　㋕　スチレン
　キ）クロルピリホス

②　検査方法
①ホルムアルデヒドは、ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着／溶媒抽出法によって採取し、高速液体クロマトグラフ法により行うものとする。

②トルエン及びキシレンは、固相吸着／溶媒抽出法、固相吸着／加熱脱着法、容器採取法の３種の方法のいずれかを用いて採取し、ガスクロマトグラフィー質量分析法により行うものとする。
③学校以外の作業等については、パッシブ型採取器による。

③　判定基準
厚生労働省が定める指針値以下とする。（数単位の換算は２５℃）
ア）ホルムアルデヒドは、100μｇ／ｍ³（0.08ppm）以下であること。
イ）トルエンは、260μｇ／ｍ³（0.07ppm）以下であること。
ウ）キシレンは、870μｇ／ｍ³（0.20ppm）以下であること。
エ）パラクロロベンゼンは、220μｇ／ｍ³（0.05ppm）以下であること。
オ）エチルベンゼンは、3,800μｇ／ｍ³（0.88ppm）以下であること。
カ）スチレンは、220μｇ／ｍ³（0.05ppm）以下であること。
※）アセトアルデヒドは、48μｇ／ｍ（0.03ppm）以下であること。

③　採取及び分析
採取及び分析は、計量法に基づく環境計量証明事業者（大気分野）によるものとする。

④　報告書
報告書は、監督員に3部提出するものとする。
なお、改修工事にあっては、工事着手前、完了後の各3部を提出するものとする。

12　建設リサイクル法・廃棄物処理法・資源有効利用促進法等

①　解体工事の通知書の提出等　※建設リサイクル法第11条の規定による通知書を作成し、監督員に提出すること。
※上記通知書の各事項（変更がある場合は、変更後の内容）について、下請業者に周知徹底すること。

②　分別解体等　※請負者は、建設リサイクル法第9条の規定に従い、分別解体等をすること
⊙特定建設資材廃棄物以外（・分別解体を行う　⊙分別処理を行う）
　分別処理する建設廃棄物の種類
　⊙廃プラスチック　⊙石膏ボード　⊙サッシ　⊙アスベスト　⊙金属くず
　・建設汚泥　・紙くず　⊙建設発生木材（伐木材、除根材など）
　⊙建設混合廃棄物　・　・　・
・請負者は、対象工事以外についても、特定建設資材の分別解体等をすること。

③　再資源化等　※「建設リサイクル法」、「彩の国建設リサイクル実施指針」、「建設副産物の手引き」等を遵守し、建設廃棄物の再資源化等を推進すること。

④　再資源化等完了の報告と記録　※廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条第1項の規定により、監督員に書面で報告するとともに、再資源化等の実施状況に関して記録を作成し、保存すること

⑤　廃棄物の処理　※「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」を遵守し、
　マニフェストシステムにより適正に処理すること。
※過積載等の違法運行の防止を図るとともに、道路交通法遵守を下請業者に徹底すること。

⑥　その他の提出書類　⊙請負者は、「資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）」等に基づき、次の工事について、本工事に係る「再生資源利用［促進］計画書」を作成し、施工計画書に含める各１部提出する。また、工事完成後速やかに計画の実施状況（実績）について、「再生資源利用［促進］実施書」を作成し、各１部提出するとともに、これらの記録を保存する。

○　再生資源利用計画書（実施書）の作成対象工事
　①　1,000m³以上の土砂を搬入する工事
　②　500ｔ以上の砕石を搬入する工事
　③　200ｔ以上の加熱アスファルト混合物を搬入する工事
　④　最終請負金額100万円以上の工事

○　再生資源利用促進計画書（実施書）の作成対象工事
　①　1,000m³以上の建設発生土を搬出する工事
　②　アスコン塊、コンクリート塊、及び建設発生木材の合計で200ｔ以上、搬出する工事
　③　最終請負金額100万円以上の工事

※　深谷市の環境配慮活動

①　摘要範囲　原則として、市が発注するすべての建設・土木工事及び修繕等を対象とする。

②　方針

①　環境配慮施工方法の採用
ア　環境・建設関係法令の遵守、工事に伴う公害の発生を抑制する。
イ　騒音、振動、粉塵、大気汚染及び水質汚濁の防止に努め、低騒音・低振動低排出型の作業機械及び工法を積極的に採用する。

②　建設廃棄物の削減
ア　関係各課は、廃木材、廃コンクリート、汚泥、残土等の発生量を把握する。
イ　建設廃棄物削減のため、リサイクルを促進するとともに、建設廃棄物の発生量が少ない施工方法の調査研究を進め、それを採用することに努める。

③　建設廃棄物のリサイクルの促進
ア　廃アスファルト、廃コンクリート、廃ガラス及び廃陶磁器片等のリサイクルを促進するとともに、リサイクルしやすい施工方法を採用する。
イ　掘削等により発生する建設発生土（残土）については削減及び現場内利用を促進し、各課との相互利用を図るため、協議・調整をする。
ウ　その他のリサイクル可能な建設廃棄物についても、積極的にリサイクルに努める。
エ　関係各課は発生する建設廃棄物のリサイクル量を把握する。

④　建設廃棄物の適正処理
ア　関係各課は、マニフェスト等により建設廃棄物の種類、数量、処分方法、最終処分量の確認を行い、それについて適正な処理がなされたことを証明する書類を保存する。
イ　関係各課は、計画地の土壌について汚染の可能性がある場合には、速やかに環境課に報告するとともにその対応について、県及び関係各課で協議し適切な処理を行なう。

⑤　再生建設素材・資材、環境負荷の少ない建設素材・資材の使用の促進
ア　再生アスファルト、再生コンクリート、エコセメント等の再生建設素材・資材活用技術を調査・研究し、その利用を促進する。
イ　有害物質（アスベスト等）の含有の少ない製品等、環境負荷の少ない建設素材、資材の活用技術を調査研究し、その利用を促進する。

⑥　熱帯材型枠の使用抑制
ア　コンクリート型枠を使用する工事を実施する課は、工事の発注にあたって、代替型枠の利用や熱帯材型枠の転用回数の増加などにより、熱帯材型枠の使用を抑制するよう請負業者に指導を行う。
イ　非熱帯材型枠の使用を促進するため、施工方法の調査・研究に努める。

⑦　施設等建築、改修の際に配慮すべき事項
ア　庁舎、施設の建築、改修にあたっては、新エネルギー・省エネルギー機器を積極的に導入するものとする。
イ　自然環境の保護や周辺環境との調和を図るため、緑地、雨水浸透施設または雨水貯留施設等の設置を促進する。

デイーゼル規制適合車の使用について

下請業者や資材納入業者に対し、以下のような文書を作成し、デイーゼル規制適合車　を使用するよう指導してください。　又、工事場所の敷地の出入り口付近に下記の内容を掲示する（900×900　程度）

建設資材納入業者
下請業者　　様

○○○　株式会社

デイーゼル規制適合車の使用について

埼玉県では、埼玉県生活環境保全条例によるデイーゼル車の運行規制が実施されており、県からこの条例を遵守するよう厳しく指導を受けて臨ります。
つきましては。この工事現場においては、下記のとうり対応することとしておりますので、工事の施工や納入にあたては、デイーゼル規制適合車を使用するようお願いいたします。

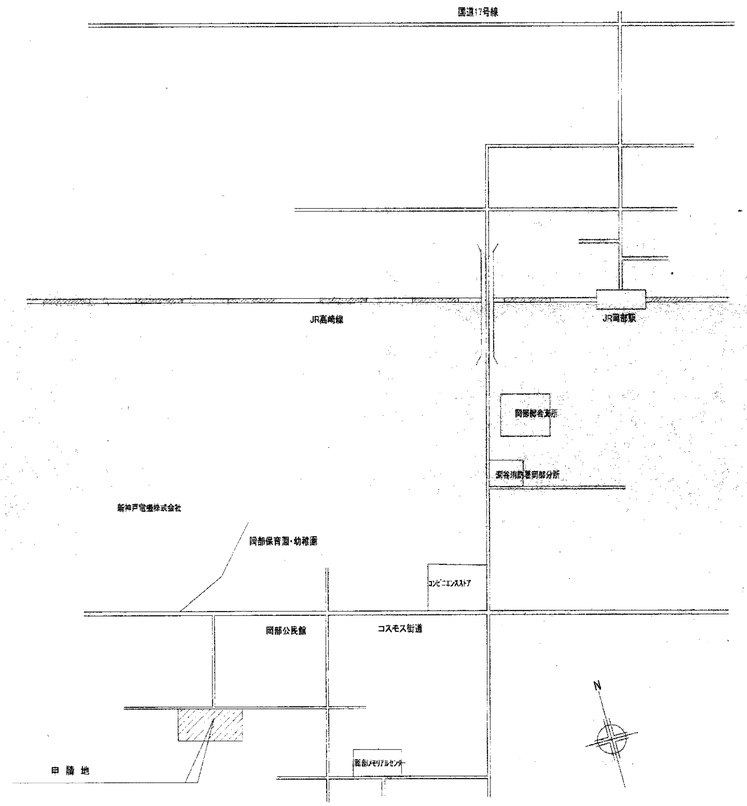
記

1. デイーゼル規制違反車は、工事現場に出入りさせません。
2. デイーゼル規制違反車で納入される建設資材は、受け取りません。

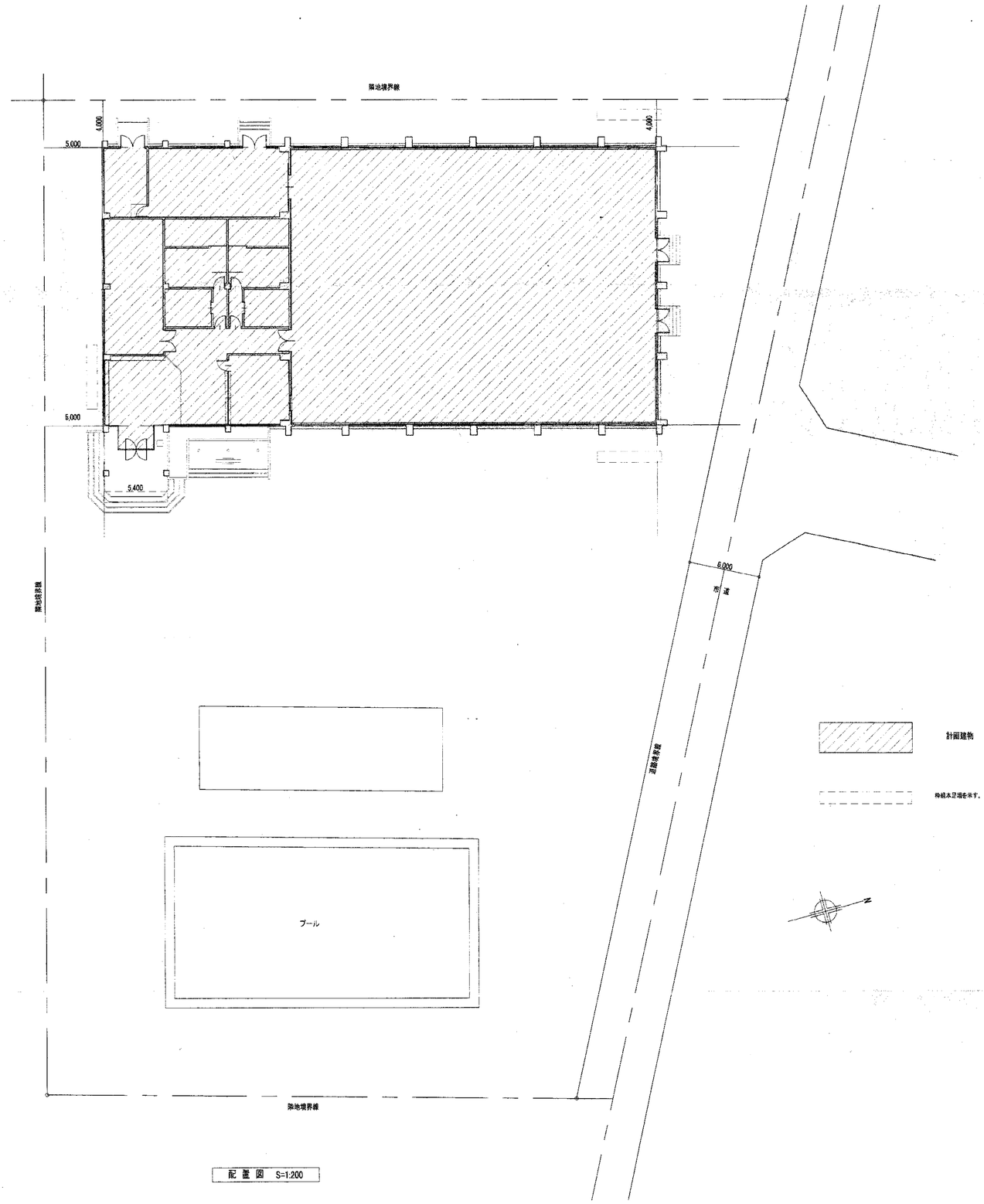
品目・工事	メーカーリスト	
防水工事	塗膜防水：ダイフレックス・カネボウ化成	同等以上
	シーリング：セメダイン・カネボウ	〃
		〃
金属製建具	YKK　不二　トステム	〃
建具金物	美和　諸和	〃
塗　装	関西　日本　東亜ペイント	〃
		〃

※　注記　　図面に記載のある工法、材料、メーカー毎は同等以上の仕様のものとすること。

工事名　岡部B&G海洋センター体育館改修工事					
特記仕様書（改修その４）			平成　　年改訂版		
[redacted]	検認	設計	提出	指定	A-5



案 内 図



配 置 図 S=1:200

[redacted]	承 認	設 計	担 当	縮 尺 1/200	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-06
				設計年月日	図面名称	案 内 図　配 置 図	

設計概要

一般事項	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	建築主	住所 〒 (TEL) 048-571-1211 深谷市仲町11番1号
	施工場所	地名・地番 深谷市仲町地内 住居表示		氏名 深谷市 深谷市長 新井 家光
	建物用途	新築工事 増築工事 改築工事 [改修工事] 用途変更	工期	着工予定 平成 年 月 日
	工事種目	市街化区域 [市街化調整区域] 都市計画区域外		竣工予定 平成 年 月 日
	都市計画		防火指定	防火地域 準防火地域 指定なし
	用途地域	第一種低層 住居専用地域 第一種中高層 住居専用地域 第二種中高層 住居専用地域 第一種住居地域 第二種住居地域 準工業地域 工業地域 工業専用地域 近隣商業地域 商業地域		
	日影規制			
	容積率等	建ぺイ率 60.00 %	容積率	200.00 %
	道路	道路名称	幅員	8.00m

建物概要

用途	スポーツレクレーション施設		階数	
工事種別	新築 増築 改築 [改修] 用途変更		最高軒高	16.95 m
耐火建築物	耐火 準耐火（ ） その他		最高高さ	11.50 m
構造種別	木造 [鉄骨造] [RC造] SRC造			
基礎形式	杭基礎 独立基礎 ベタ基礎 布基礎			

面積表

敷地面積	公簿				
	実測				695.94 ㎡
	No.				合計
建築面積	申請部分	0 ㎡	㎡	㎡	0 ㎡
	既存面積	1,179.25 ㎡	㎡	㎡	1,179.25 ㎡
	合計	1,179.25 ㎡	㎡	㎡	1,179.25 ㎡
床面積	申請部分	0 ㎡	㎡	㎡	0 ㎡
	既存面積	1,102.27 ㎡	㎡	㎡	1,102.27 ㎡
	合計	1,102.27 ㎡	㎡	㎡	1,102.27 ㎡
建ぺイ率			容積率		

外部仕上表

		改修前 仕上		改修後 下地処理	改修後 仕上
大屋根	一般部	大樹折版（コルテン鋼）			（現況のまま）
	ケラバ部分				
	天窓廻り	コーキング 不良部のみ撤去			コーキング （新設）
下屋屋根					
	一般部	丸はぜ折版 着色亜鉛鉄板(了)0.8		高圧水洗浄、ケレン 、錆止め	アクリルシリコン樹脂塗装
	水切	着色亜鉛鉄板(了)0.8		高圧水洗浄、ケレン 、錆止め	アクリルシリコン樹脂塗装
玄関屋根	平場	アスファルト露出防水 （冷工法）	全面	ｹﾚﾝ・清掃・高圧洗浄（水圧120～150kg/cm ） 樹脂ﾓﾙﾀﾙ下地調整	ウレタン塗膜防水 (X-1)
			浮き部分	切開後、あぶり戻し	
			不良部分	樹脂モルタル、勾配調整	
	立上り	アスファルト露出防水 （冷工法） （撤去）	全面	ｹﾚﾝ・清掃・高圧洗浄（水圧120～150kg/cm ） 樹脂ﾓﾙﾀﾙ/ﾛ引き	ウレタン塗膜防水 (X-2)
軒裏	一般部	防水モルタル金コテ		清掃・ 高圧洗浄（水圧120～150kg/cm ） 樹脂ﾓﾙﾀﾙ/ﾛ引き	ウレタン塗膜防水 (X-1)
	立上部	防水モルタル金コテ		清掃・ 高圧洗浄（水圧120～150kg/cm ） 樹脂ﾓﾙﾀﾙ/ﾛ引き	ウレタン塗膜防水 (X-2)
軒天井	一般部	コンクリート打放し アクリルリシン吹付		現況のままの上 LGS（外部用25型） （新設）	けい酸カルシウム板(了)6 目透かし EP （新設）
		フレキシブルボード(了)6VP			（現況のまま）
外壁	一般部	コンクリート打放し アクリルリシン吹付		高圧水洗浄 下地処理 C-1	外装薄塗材E（ｼｰﾗｰ処理共）
		施設名文字看			文字書換え

外部仕上表

		改修前 仕上	改修後 下地処理	改修後 仕上
腰・外巾木	一般部	モルタル金コテ仕上		（現況のまま）
エントランス	天井	フレキシブルボード(了)6VP		（現況のまま）
	床	モルタル金コテ仕上		（現況のまま）
開口部	窓	アルミサッシ		網戸 （不良部のみ） （張替）
	出入口	アルミドアー （玄関）	（撤去）	アルミドアー （新設）
		スチールドアー	ｹﾚﾝ、錆止め	SOP （塗替）
	ｼｬｯﾀｰ ガラリ			

外部金物等

庇樋	ドレーン	竪型鋳鉄製φ125 （撤去）		改修用塩ビドレーン 100φ （新設）
	竪樋	白ガス管φ125 （不良部のみ撤去）		VPφ125 （新設）
タラップ		スチール製	ケレン 錆止め、SOP	EP （塗替）
屋上看板		一時取外し	ケレン 錆止め、SOP 取付部補強 看板プレート部撤去、移設	再取付

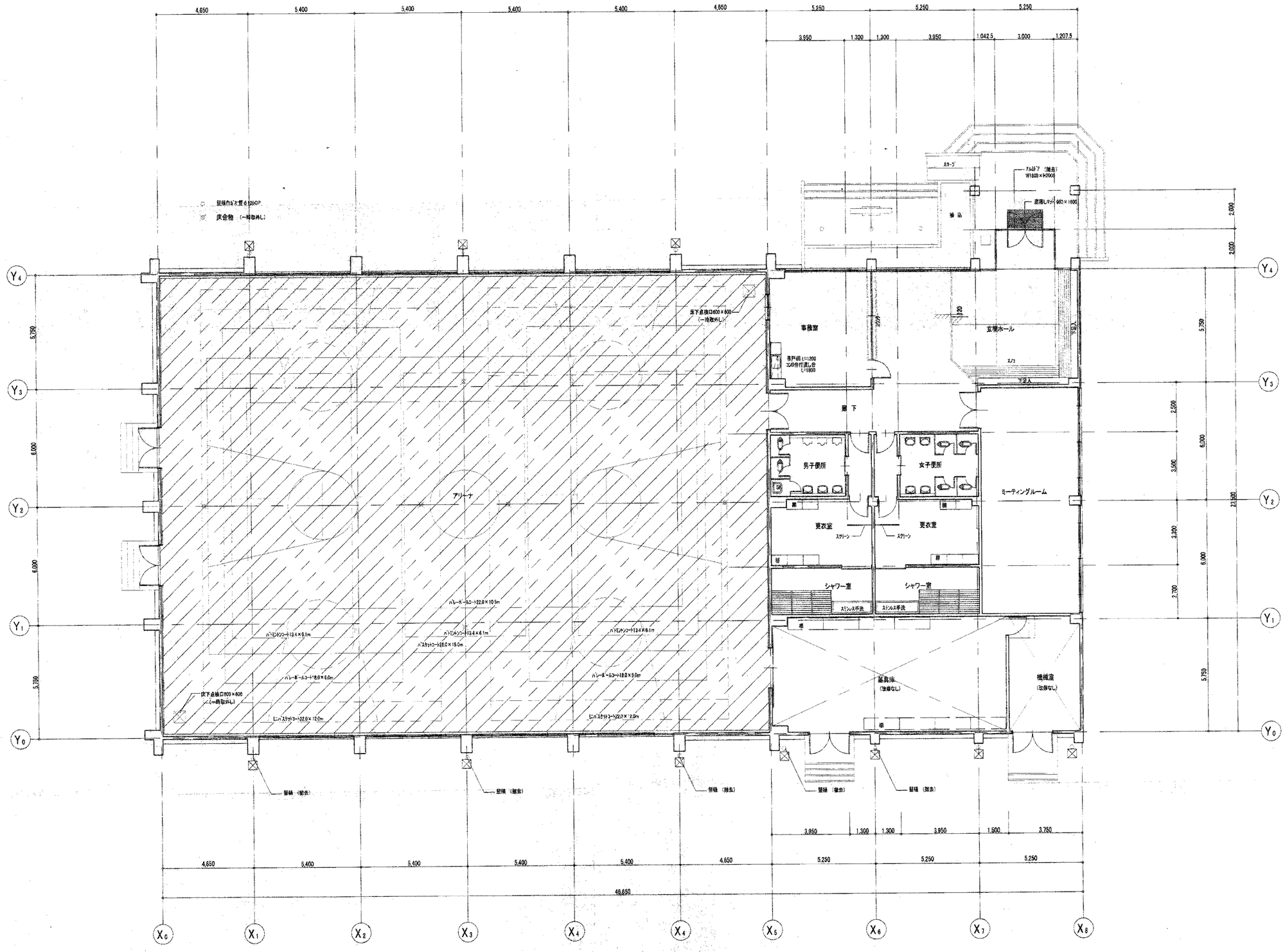
[redacted]

承認	設計	担当	縮尺 1/100	工事名称 岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-07
			設計年月日	図面名称 設計説明書 外部仕上表	

階	室名		床 下地	床 仕上	巾木 仕上	巾木 H	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井高	廻り縁	備考
1 F	玄関ホール	改修前		モルタル金コテ目地切	モルタル金コテ VP	120		モルタル金コテ AEP	LGS下地	PB(ｱ) 9捨貼 岩綿吸音板(ｱ) 12	2,470	塩ﾋﾞ製	下足入 塩ﾋﾞ製スノコ 自動販売機
		改修後		現況のまま	現況のまま 白ﾗﾜﾝ OP	120		下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま 現況のまま 現況のまま
	廊下	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		モルタル金コテ AEP	現況のまま	PB(ｱ) 9捨貼 岩綿吸音板(ｱ) 12	2,350	塩ﾋﾞ製	
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	
	事務室	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		PB(ｱ) 12+9GL工法 AEP	LGS下地	PB(ｱ) 9捨貼 岩綿吸音板(ｱ) 12	2,350	塩ﾋﾞ製	ｶｳﾝﾀｰ 流し台L=1200 ｶﾞｽ台 L=600 吊戸棚L=1200 換気扇 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (ﾚｰﾙ共)
		改修後	現況のまま	現況のまま				下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま
	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木			PB(ｱ) 12+9GL工法 AEP (一部撤去)	LGS下地	PB(ｱ) 9捨貼 岩綿吸音板(ｱ) 12	2,350	塩ﾋﾞ製	ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (ﾚｰﾙ共)
		改修後	現況のまま	現況のまま 一部	現況のまま	75		下地処理後 AEP (塗替) PB(ｱ) 12+9GL工法 AEP (一部新設・塗替)		下地処理後 AEP (塗替)		現況のまま	現況の来まま
	廊下（女子更衣室前）	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP		塩ﾋﾞ製	
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま	2,350	現況のまま	
	女子更衣室	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,350		ｱﾙﾐ枠ﾍﾞﾗｽｸﾘｰﾝ 姿見
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況の来まま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま			現況のまま
	女子便所	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ25□	100角半磁器ﾀｲﾙ	1,100 1,300		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,450	塩ﾋﾞ製	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ (ｼﾅ合板ﾌﾗｯｼｭOP) トイレドア1便所破損 (撤去) 手洗排水管つまり1個所
		改修後	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま トイレドア1便所 (新設) 手洗排水管 (高圧洗浄)
	女子ｼｬﾜｰ室	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ25□	100角半磁器ﾀｲﾙ	1,100 1,300	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,450	塩ﾋﾞ製	(手洗 ｼｬﾜｰﾌﾞｰｽ ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ ﾌﾞｰｽ枠 ｽﾉｺ) 現況のまま
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況の来まま
	廊下（男子更衣室前）	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,350	塩ﾋﾞ製	
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	
	男子更衣室	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾙ貼り (ｱ) 2.0	ｿﾌﾄ巾木	75		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,350	塩ﾋﾞ製	(ｱﾙﾐ枠ｶﾞﾗｽｽｸﾘｰﾝ 姿見) 現況のまま
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま
	男子便所	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ25□	100角半磁器ﾀｲﾙ	1,100 1,300		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,450	塩ﾋﾞ製	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ (ｼﾅ合板ﾌﾗｯｼｭOP) 現況のまま
		改修後	現況のまま	現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま
	男子ｼｬﾜｰ室	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	75角磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ	100角半磁器ﾀｲﾙ	1,100 1,300		モルタル金コテ AEP	LGS下地	アスベストラックス(ｱ)5 AEP	2,450	塩ﾋﾞ製	(手洗 ｼｬﾜｰﾌﾞｰｽ ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ ﾌﾞｰｽ枠 ｽﾉｺ) 現況のまま
		改修後		現況のまま	現況のまま			下地処理後 AEP (塗替)	現況のまま	現況のまま		現況のまま	現況のまま
	アリーナ	改修前	LGS鋼製床下地 T1ﾍﾟﾆｱ(ｱ)12下地	ﾌﾟﾗﾝﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ特殊強り(ｱ)13ｱｸﾘﾙ樹脂塗装	ﾗﾜﾝ OP	100		ﾌﾟﾘﾝﾄ化粧フローリング(ｱ)12竪羽目 (梁ﾊﾟﾃ) コンクリート打放しｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付 一部ｼﾝﾊﾟﾆｱ(ｱ)60P (一部ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付)		石綿ｹｲ酸カルシウム板(ｱ)6ｱｸﾘﾙ塗装 一部破損 (撤去)			(防球柵子 吊上げ用ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ (1対) 固定式ﾐﾆﾊﾞｽｺｰﾙ2対) 支柱基礎3箇 ｺｰﾄﾗｲﾝ (ﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ×1面 ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ×2面 ﾊﾞﾚｰｺｰﾄ×3面 ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝｺｰﾄ×3面) (床金具3箇一時取外し) 床下点検口600×600 (一時取外し)
		改修後	現況のまま 現況のまま	ｻﾝﾀﾞｰ掛 1液ｳﾚﾀﾝ3回塗り	現況のまま			現況のまま		現況のまま 一部けい酸カクシウム板(ｱ)6 EP (新設)			(防球柵子 吊上げ用ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ (1対) 固定式ﾐﾆﾊﾞｽｺｰﾙ2対) 現況のまま 支柱基礎3箇 ｺｰﾄﾗｲﾝ (ﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ×1面 ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ×2面 ﾊﾞﾚｰｺｰﾄ×3面 ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝｺｰﾄ×3面) (新設) (床金具3箇高取付) 床下点検口600×600 (再取付)
	器具庫 (改修工事なし)	改修前		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ 目地切	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	100		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ 目地切		折版下地石綿ｽﾚｰﾄ(ｱ)5貼り (耐火R0051-屋根30分耐火) (ｱｽﾍﾞｽﾄ封じ込み処理済)			
		改修後		現況のまま	現況のまま			現況のまま		現況のまま			
	機械室 (改修工事なし)	改修前		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ 目地切	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	100		ﾛｯｸｳｰﾙ吹付(ｱ)20ｴﾝﾎﾞｽ模様		折版下地石綿ｽﾚｰﾄ(ｱ)5貼り (耐火R0051-屋根30分耐火) (ｱｽﾍﾞｽﾄ封じ込み処理済)			
		改修後		現況のまま	現況のまま			現況のまま		現況のまま			

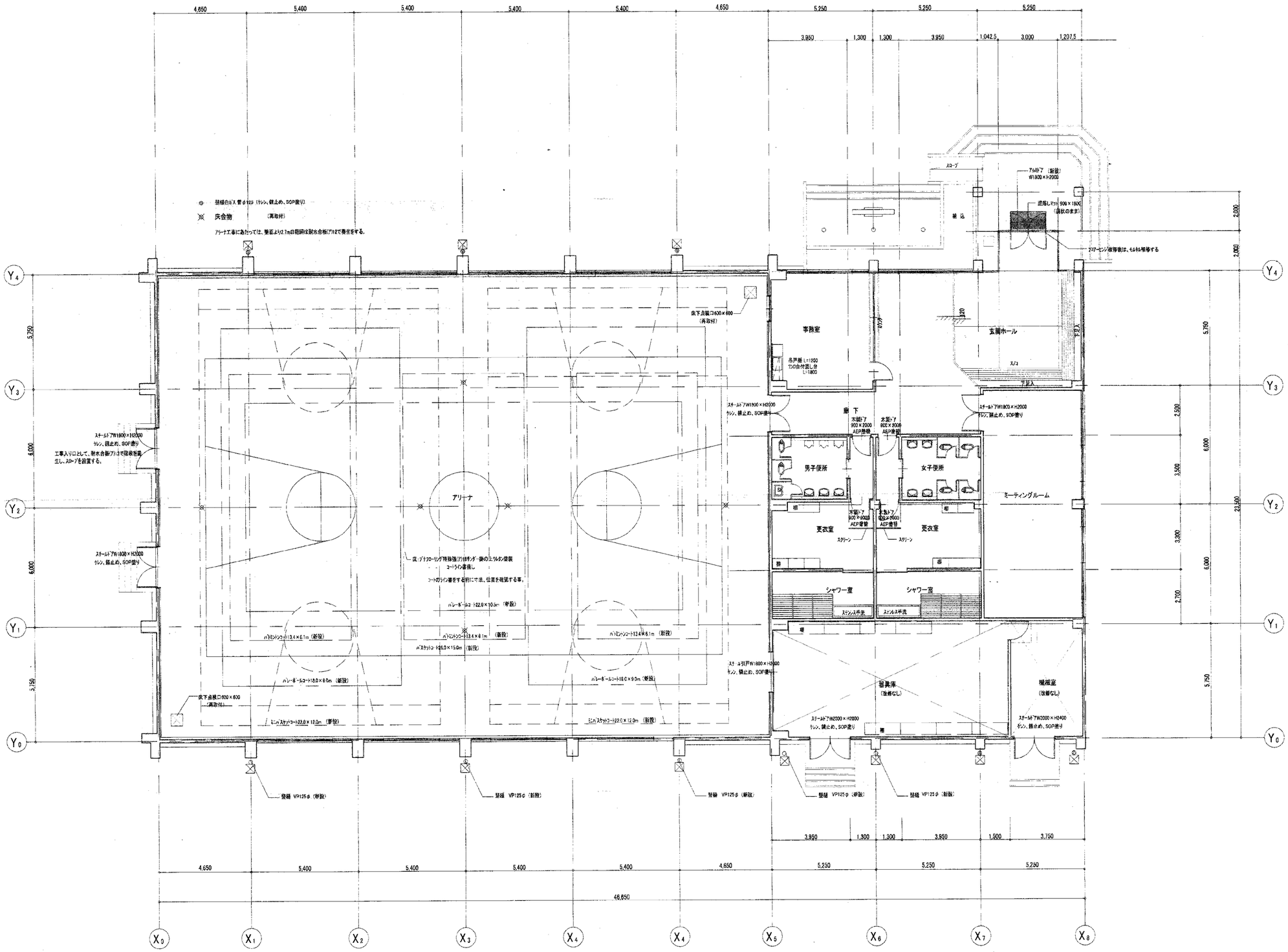
[redacted]

承認	協議	担当	審査	縮尺	工事名称	岡部町AG海洋センター体育館改修工事	No. A-08
				設計年月日	図面名称	内部仕上表	



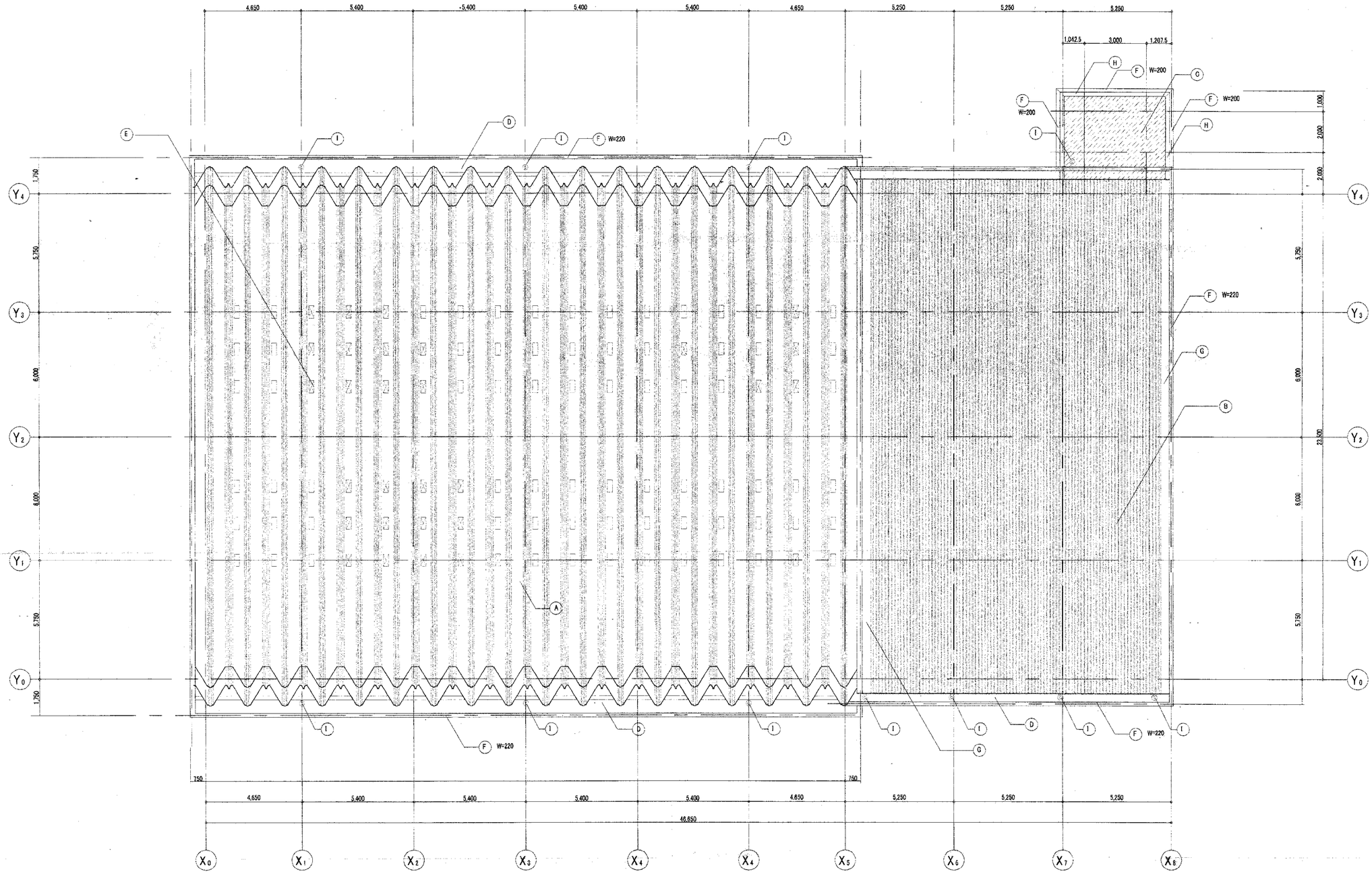
1 階 平 面 図 （改修前） S=1:100

承認	設計	担当	照査	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-09
				西暦年月日	図面名称	1 階 平 面 図 （改修前）	



1 階 平 面 図 (改修後) S=1:100

承 認	設 計	担 当	照 査	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-10
				設計年月日	図面名称	1 階 平 面 図 (改修後)	

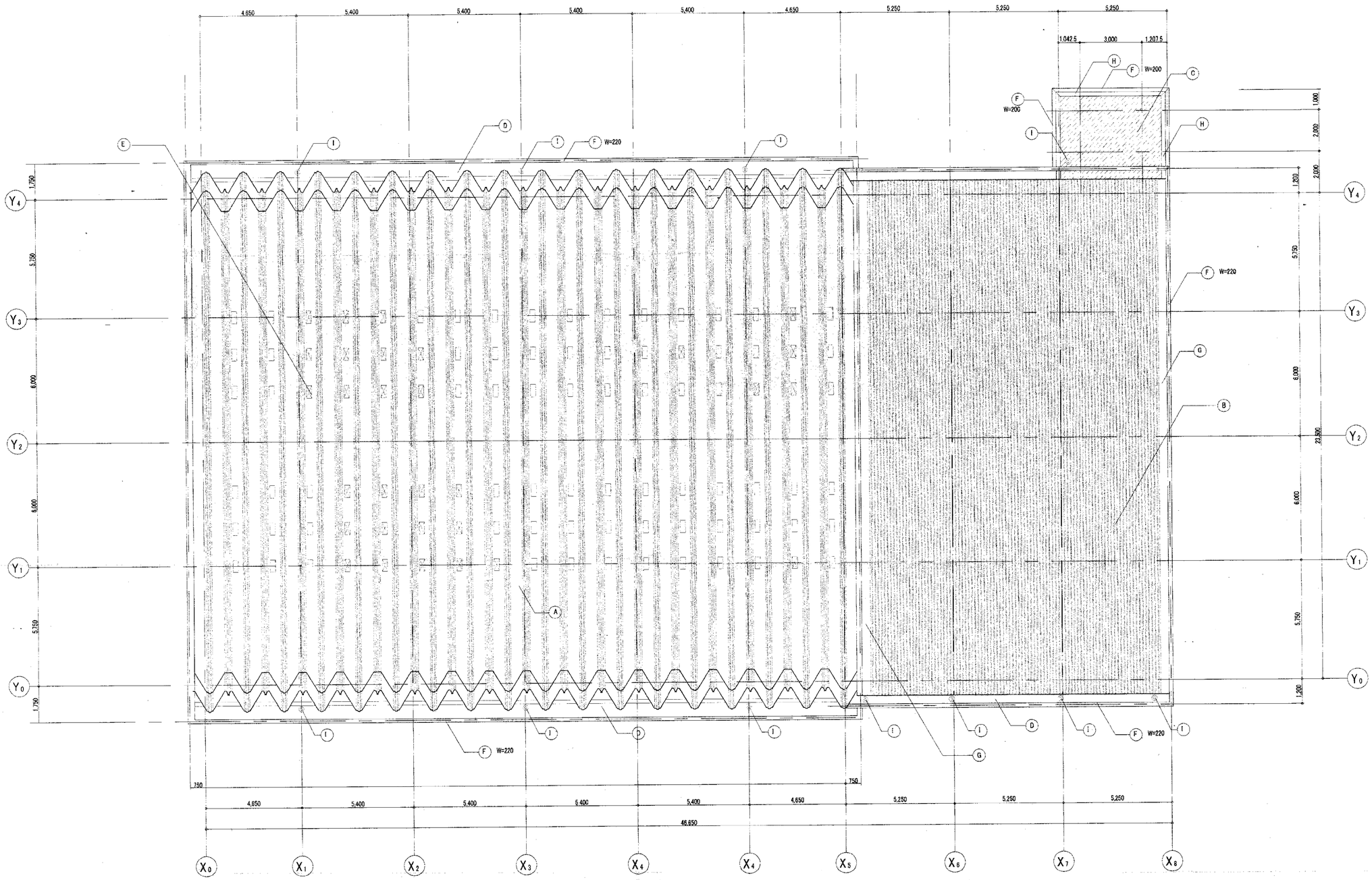


屋 根 伏 図 (改修前) S=1:100

記号	改修前		記号	改修前	
A	大型折板(コルテン鋼)		F	アルミ笠木 W=220 (既存のまま) (軒樋) アルミ笠木 W=200 (既存のまま) (玄関扉横)	
B	丸はぜ折版(亜鉛鉄板) 裏面 石綿フェルト(7)5貼り		G	水切 着色亜鉛鉄板(7)0.8	
C	平場 アスファルト露出防水(冷工法) 立上り アスファルト露出防水(冷工法) (撤去)		H	笠木 防水モルタル金コテ	
D	防水モルタル金コテ目地切		I	ドレーン・鋳鉄製 φ125 整型 (撤去)	
E	天窓(W=670×H=430網いり型ガラス)				

天窓 周囲コーキング不良 (撤去)

承認	設計	担当	照査	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-11
				設計年月日	図面名称	屋根伏図 (改修前)	



屋根伏図（改修前） S=1:100

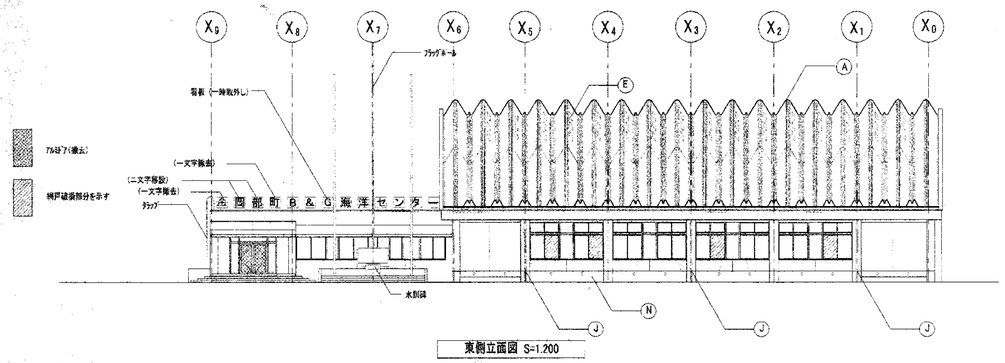
天窓 周囲コーキング （新設）

記号	改修前	改修後	記号	改修前	改修後
A	大型折版(コルテン鋼)	(既存のまま)	F	アルミ笠木 W=220 (既存のまま) (軒樋) アルミ笠木 W=200 (既存のまま) (玄関屋根)	アルミ笠木 W=220 (既存のまま) アルミ笠木 W=200 (既存のまま)
B	丸はぜ折板(亜鉛鉄板) 裏面 石綿フェルト(アス)5貼り	下地処理後 アクリルシリコン樹脂塗装	G	水切 着色亜鉛鉄板(アス)0.8	下地処理後 アクリルシリコン樹脂塗装
C	平場 アスファルト露出防水(冷工法) 立上り アスファルト露出防水(冷工法) (撤去)	下地処理後 ウレタン塗膜防水(X-1) 下地処理後 ウレタン塗膜防水(X-2)	H	笠木 防水モルタル金コテ	下地処理後 ウレタン塗膜防水(X-2)
D	防水モルタル金コテ目地切	下地処理後 ウレタン塗膜防水(X-1) (平場) ウレタン塗膜防水(X-2) (立上り)	I	ドレーン 鋳鉄製 竪型 φ125 (撤去)	改修用塩ビ製ドレーン φ100 (新設)
E	天窓(W=670×H=430網いり型ガラス)	外周 シーリング (新設)			

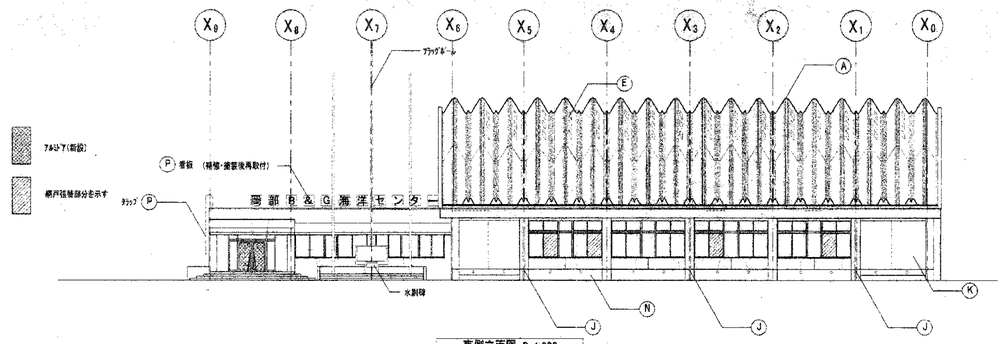
[redacted]

承認	設計	担当	検査	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-12
				設計年月日	図面名称	屋根伏図 (改修後)	

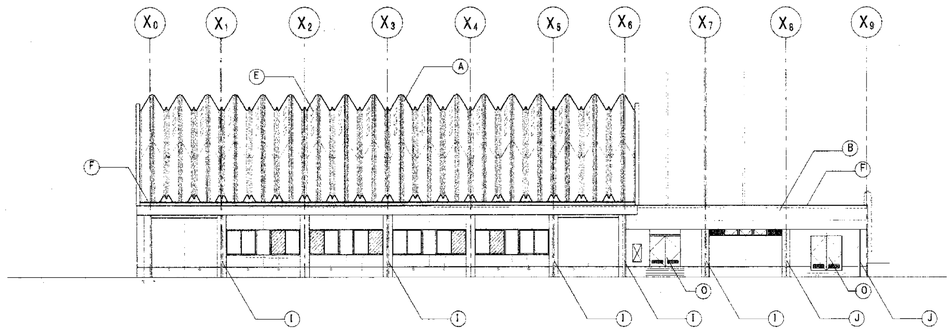
改修前	改修後



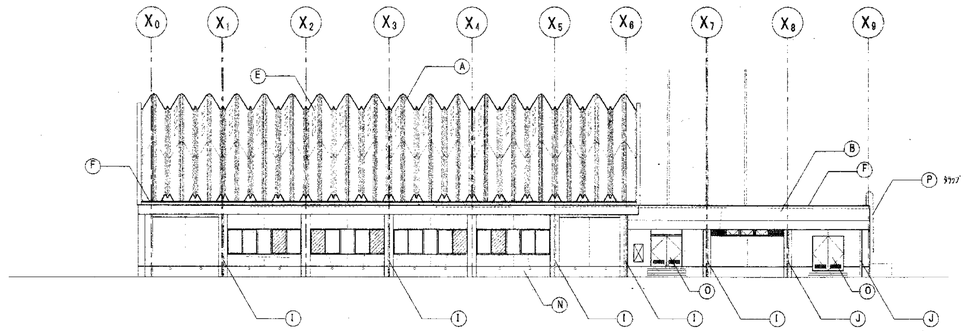
東側立面図 S=1:200



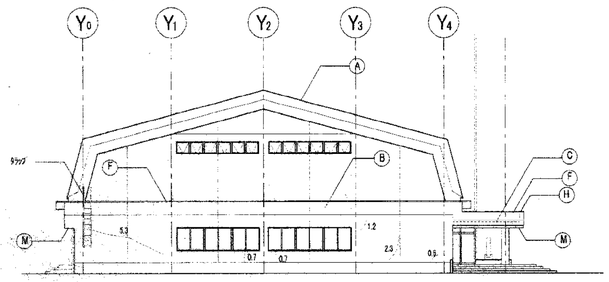
東側立面図 S=1:200



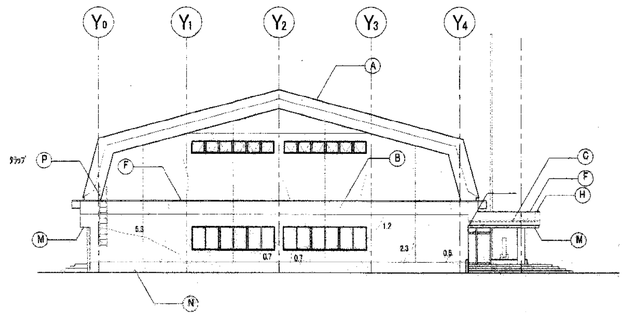
西側立面図 S=1:200



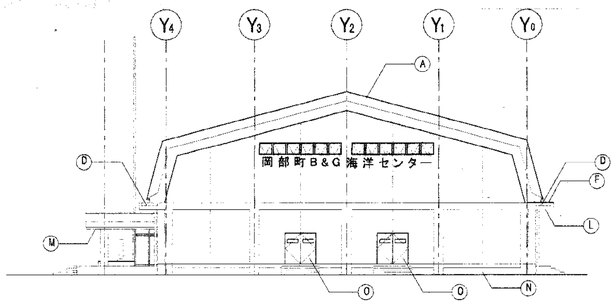
西側立面図 S=1:200



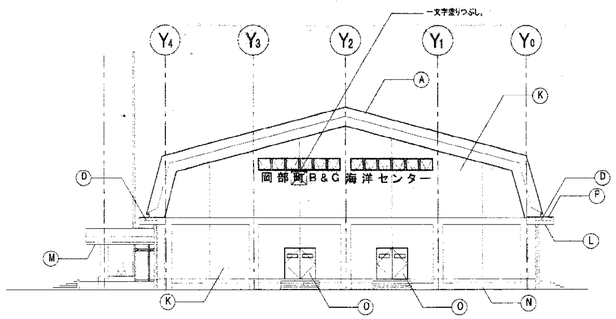
南側立面図 S=1:200



南側立面図 S=1:200



北側立面図 S=1:200



北側立面図 S=1:200

※　看板は取かし後、一文字撤去・三文字移設。支持金物はPL-6で補強・ﾄﾚﾝｼｰ錆止め・塗装後再取付する。

符号	改修前	改修後
A	大屋根　大型折板(ﾆｽﾀﾞ)(横)	(既存のまま)
B	ﾙﾅﾋﾞ折版　(着色亜鉛鉄板(T0.8)	下地処理後　アクリルシリコン樹脂塗装
C	アスファルト露出防水(外工法)　平場 立上り　(撤去)	下地処理後　塗膜防水　(X-1) 下地処理後　塗膜防水　(X-2)
D	防水モルタル金ｺﾃ目字切	下地処理後　塗膜防水　(X-1) 下地処理後　塗膜防水　(X-2)
E	天窓	不良部　コーキング
F	ﾀﾃ樋　W=200　W=220	(既存のまま)
G		
H	笠木　防水モルタル金ｺﾃ	下地処理後　塗膜防水　(X-2)

符号	改修前	改修後
I	ﾄﾚﾝｼｰ　鋼鉄製φ125　(撤去) 竪樋　白ｶﾞｽ管φ125　(撤去)	改修用硬質塩ﾋﾞﾄﾚﾝｼｰφ125　(新設) 竪樋　VPφ125　(新設)
J	ﾄﾚﾝｼｰ　鋼鉄製φ125　(撤去) 竪樋　白ｶﾞｽ管φ125	改修用硬質塩ﾋﾞﾄﾚﾝｼｰφ125　(新設) 竪樋　ﾄﾚﾝｼｰ錆止め・SOP
K		
L		
M	ｱﾙﾐｼｰﾄﾙｰﾌ(T0.0 VP	(既存のまま)
N	外作大　モルタル金ｺﾃ	(既存のまま)
O	ｽﾁｰﾙｻｯｼｰ　OP	下地処理後　SOP　(塗替)
P	外部金物　OP　(タラップ、看板、鋼材等)	下地処理後　SOP　(塗替)

[redacted]

承認	設計	担当	照査

縮尺　1/200

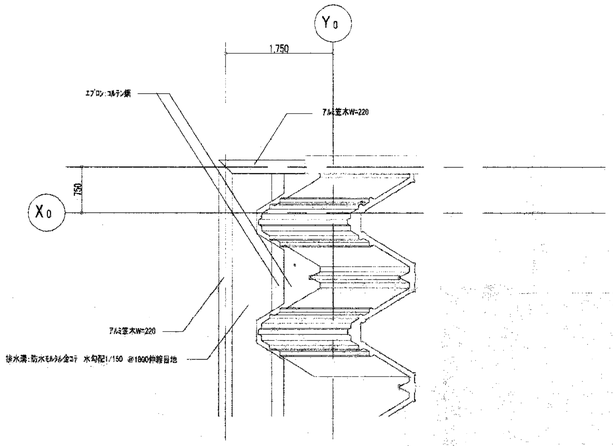
設計年月日

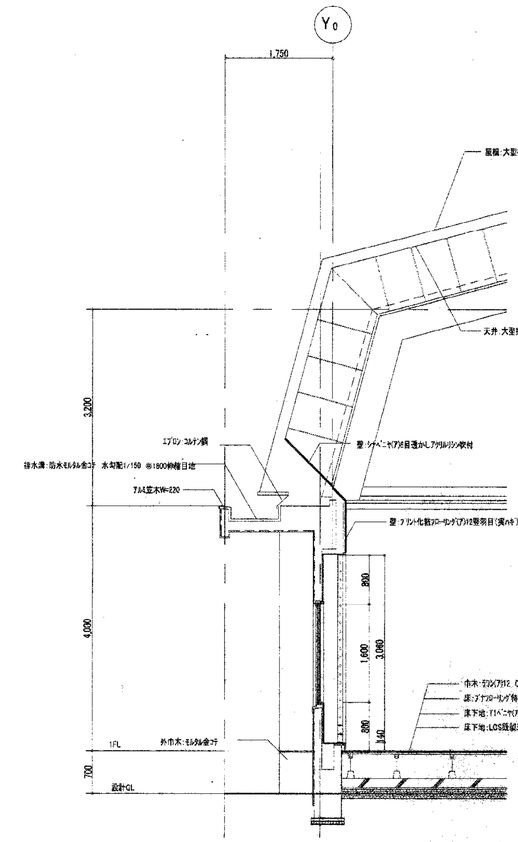
工事名称　岡部B&G海洋センター体育館改修工事

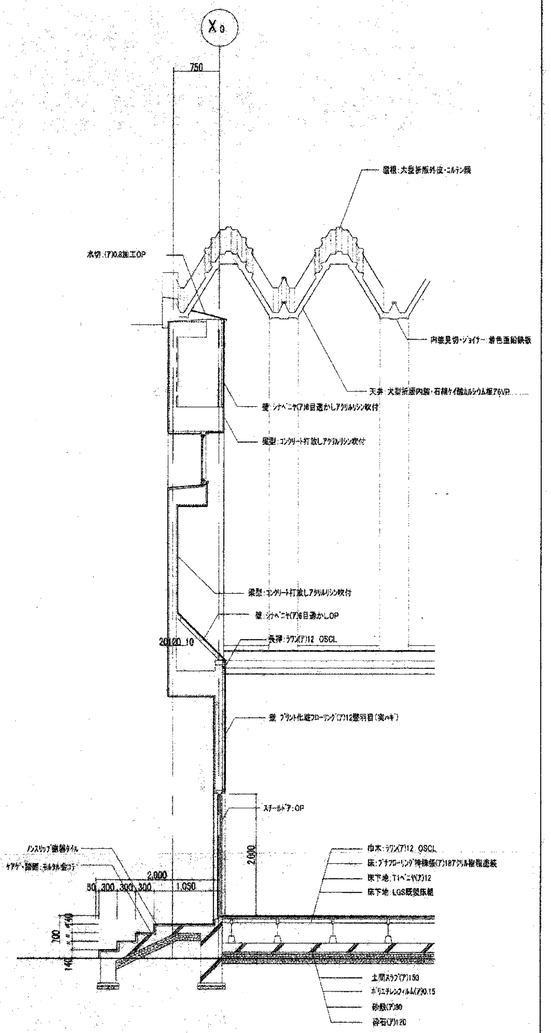
図面名称　立面図

No. A-13

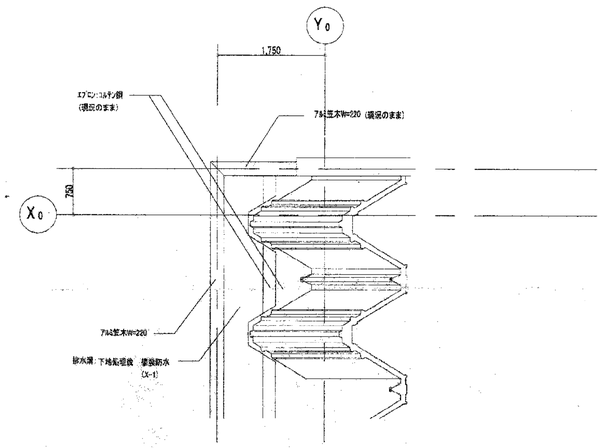
改修前

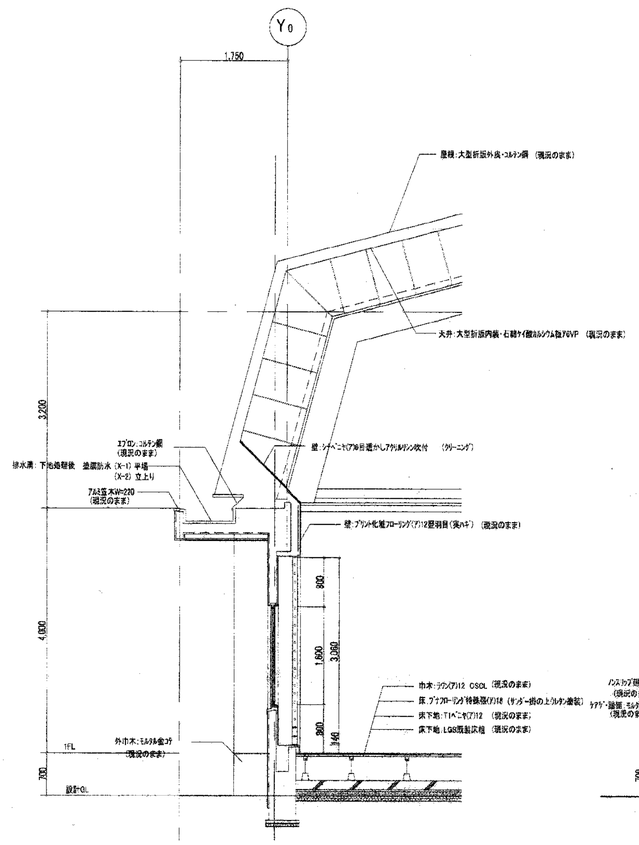


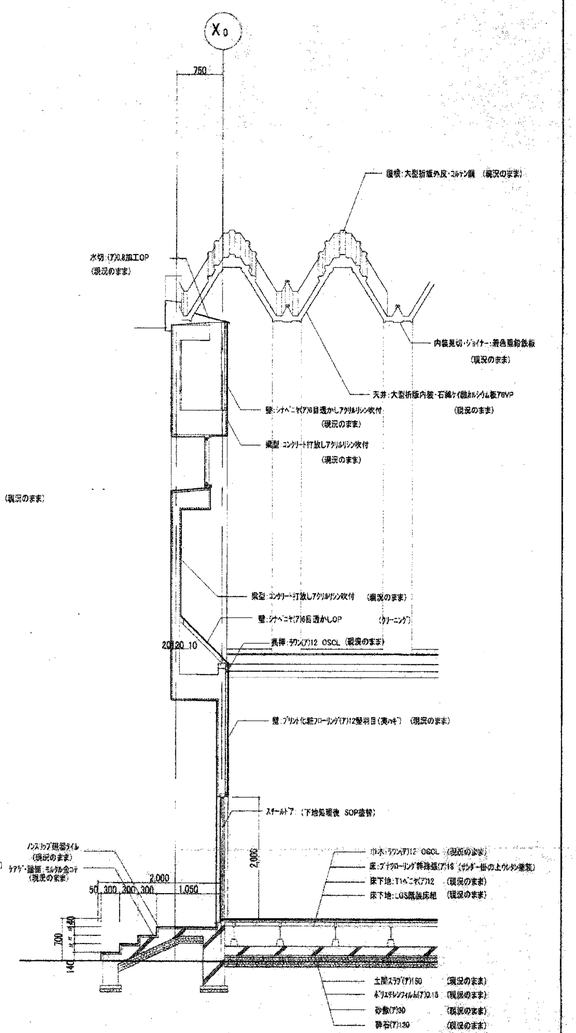




改修後

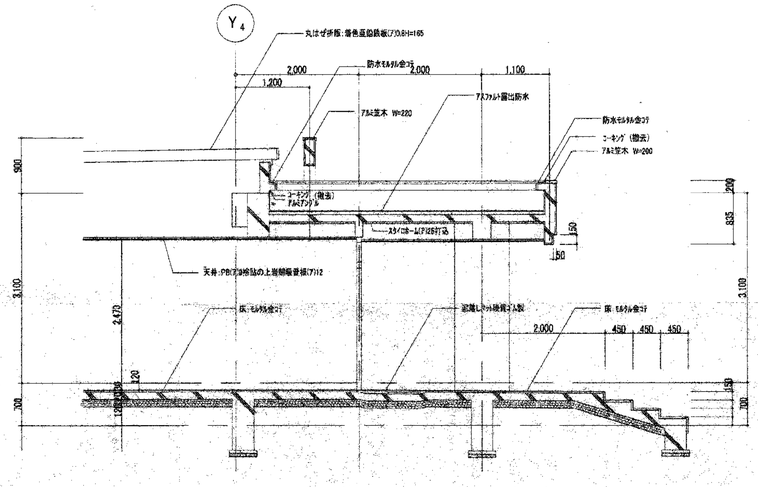


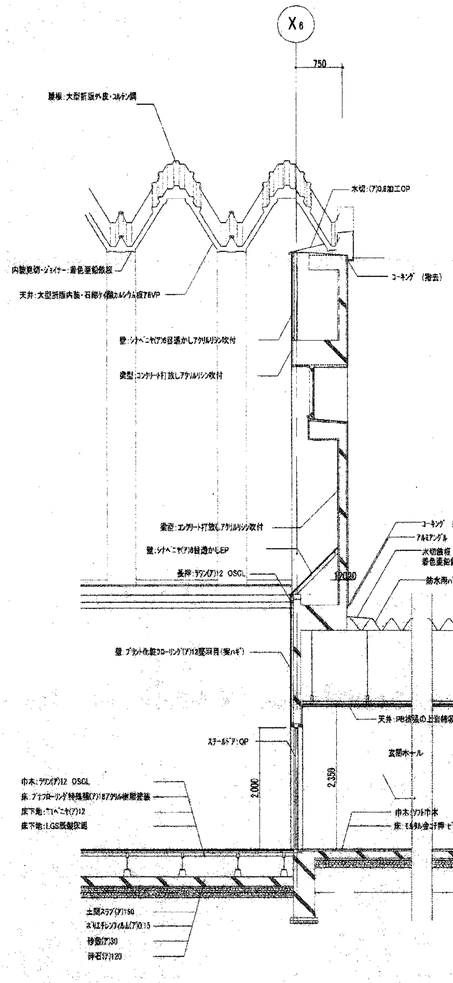


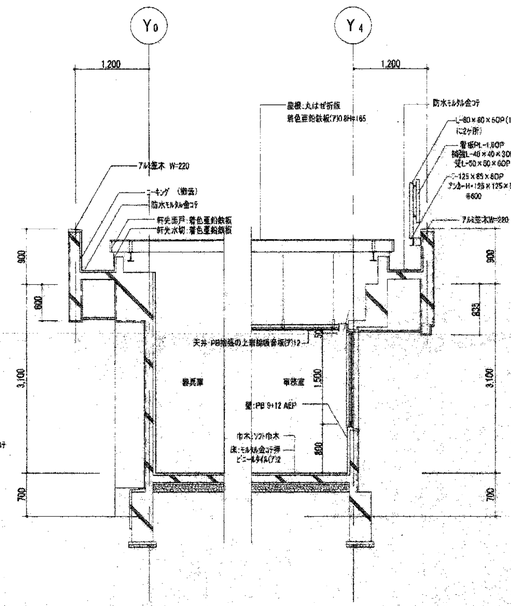


承認	設計	担当	照査	縮尺 1/50	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-14
				設計年月日	図面名称	設計図 (1)	

改修前

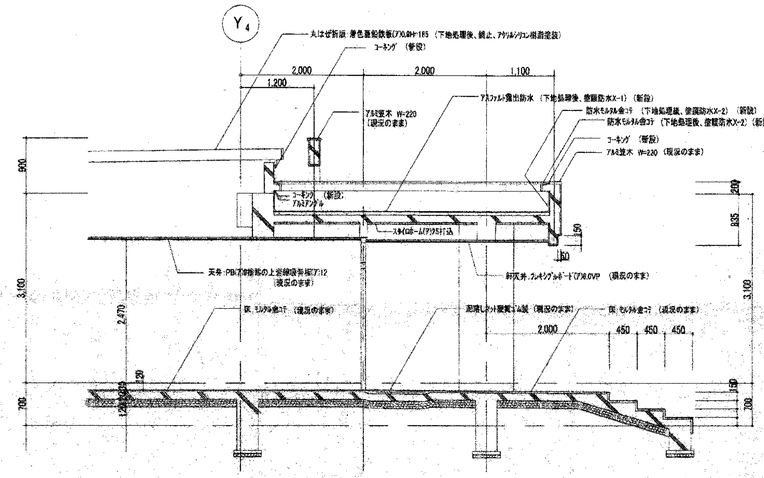


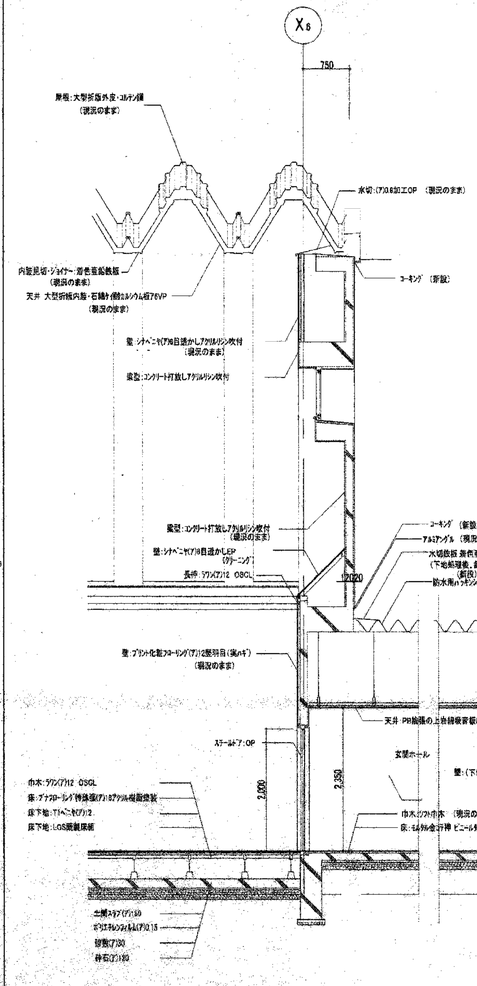


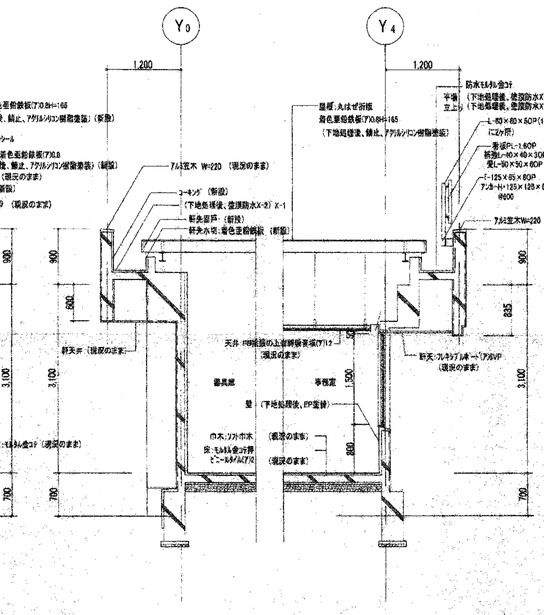


矩形図 S=1:50

改修後



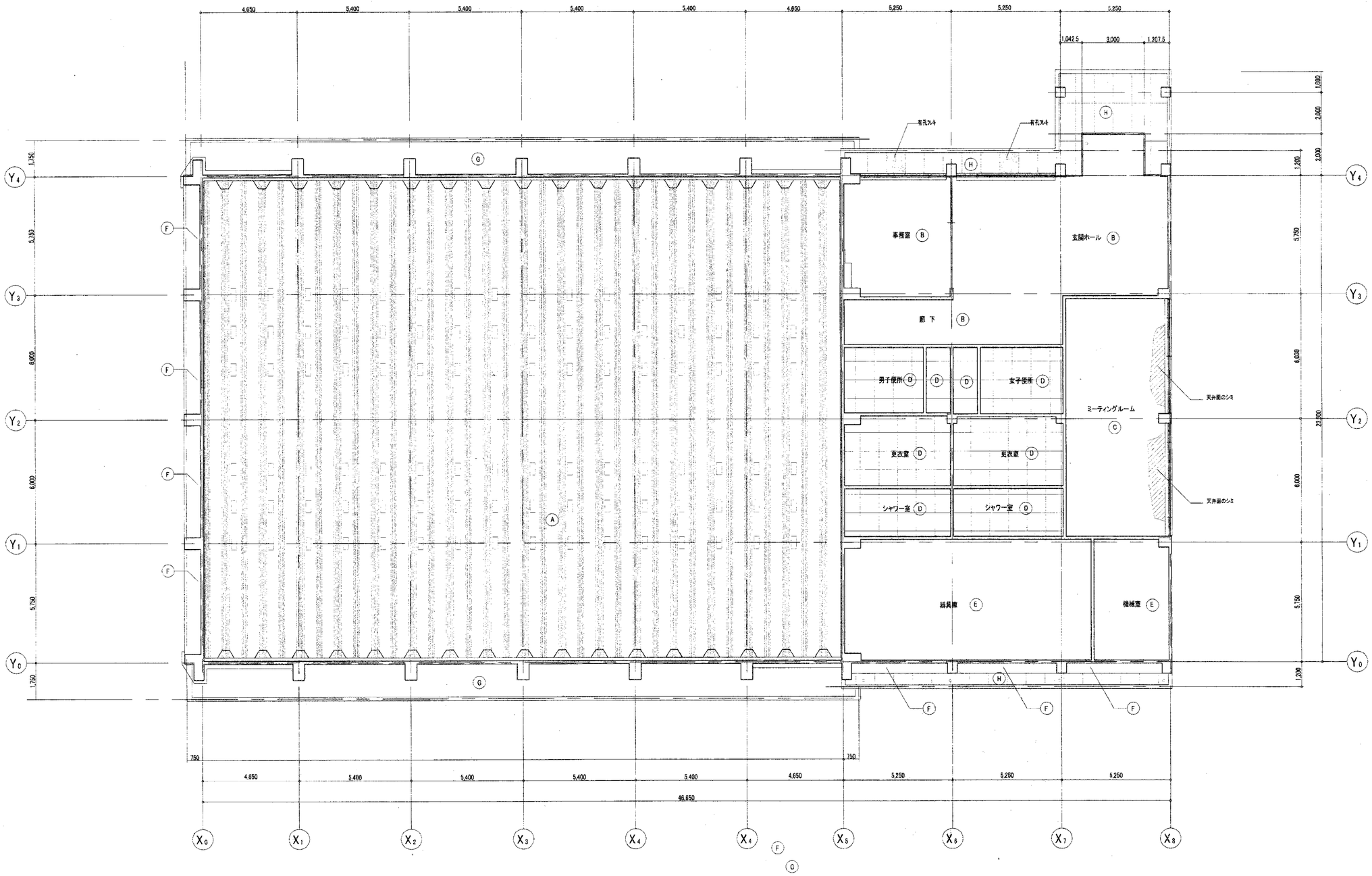




矩形図 S=1:50

承認	設計	担当	照査	縮尺 1/50 設計年月日	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-15
					図面名称	矩計図(2)	

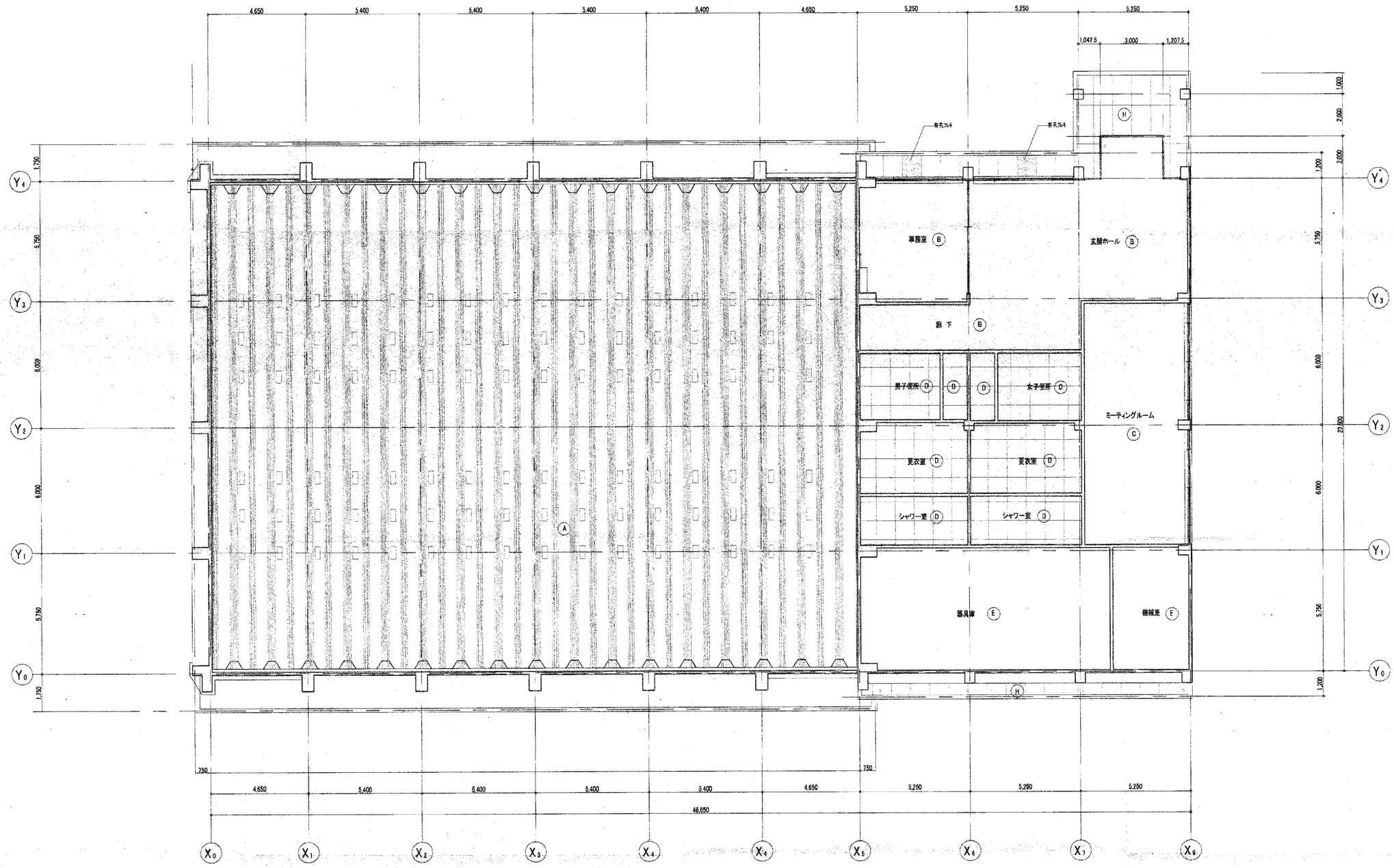
[redacted]



天 井 伏 図 S=1:100

記号	改 修 前		記号	改 修 前	
A	石綿ケイ酸カルシウム板(ア)6アクリル塗装		F	コンクリート打放しアクリルリシン吹付	
B	PB(ア)9捨張り岩綿吸音板(ア)12		G	コンクリート打放しアクリルリシン吹付	
C	PB(ア)9捨張り岩綿吸音板(ア)12		H	フレキシブルボード(ア)6VP　一部有孔フレキシブルボード (ア)6 VP	
D	アスベストラックス(ア)5AEP(目透かし)				
E	折版下地石綿フェルト(ア)5貼り (アスベスト封じ込め処理済)			カーテンボックス木製 OP	

承認	設計	担当	監修	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-16
				設計年月日	図面名称	天 井 伏 図 (改修前)	



天 井 伏 図 S=1:100

記号	改修前	改修後	記号	改修前	改修後
A	石膏ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板(ｱ)6ｱｸﾘﾙ塗装	(既存のまま)	F		
B	PB(ｱ)9格張り岩綿吸音板(ｱ)12	(既存のまま)	G		
C	PB(ｱ)9格張り岩綿吸音板(ｱ)12	EP塗 (新設)	H	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ(ｱ)6VP 一部有孔ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ (ｱ)6 VP	(既存のまま)
D	ｱｽﾍﾞｽﾄﾗｯｸｽ(ｱ)5AEP(目透かし)	(既存のまま)			
E	折版下地石綿ﾌｪﾙﾄ(ｱ)5貼り (ｱｽﾍﾞｽﾄ封じ込み処理済)	(既存のまま)		カーテンボックス木製 OP	(既存のまま)

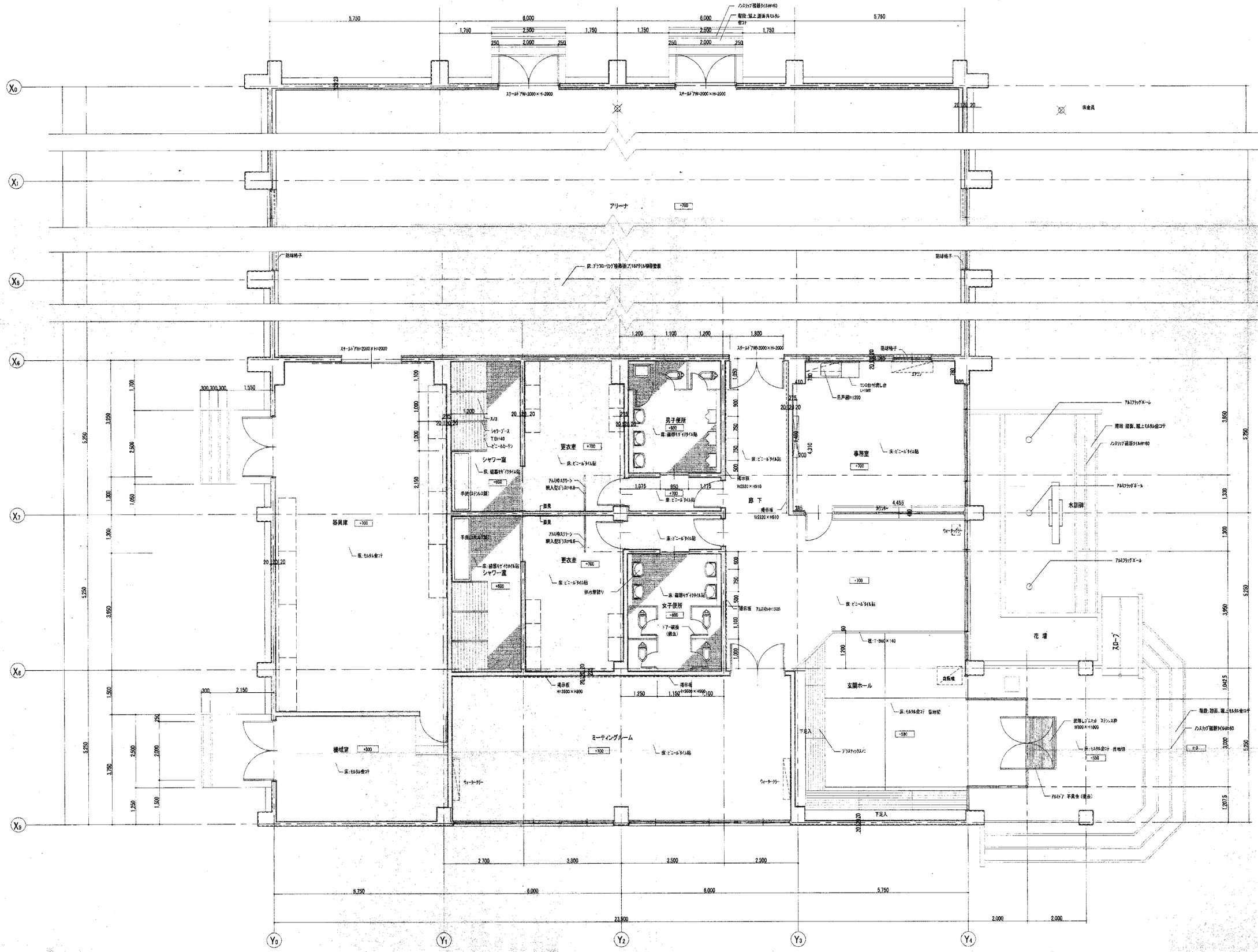
[redacted]

承認	検討	担当	原案

縮尺 1/100
設計年月日

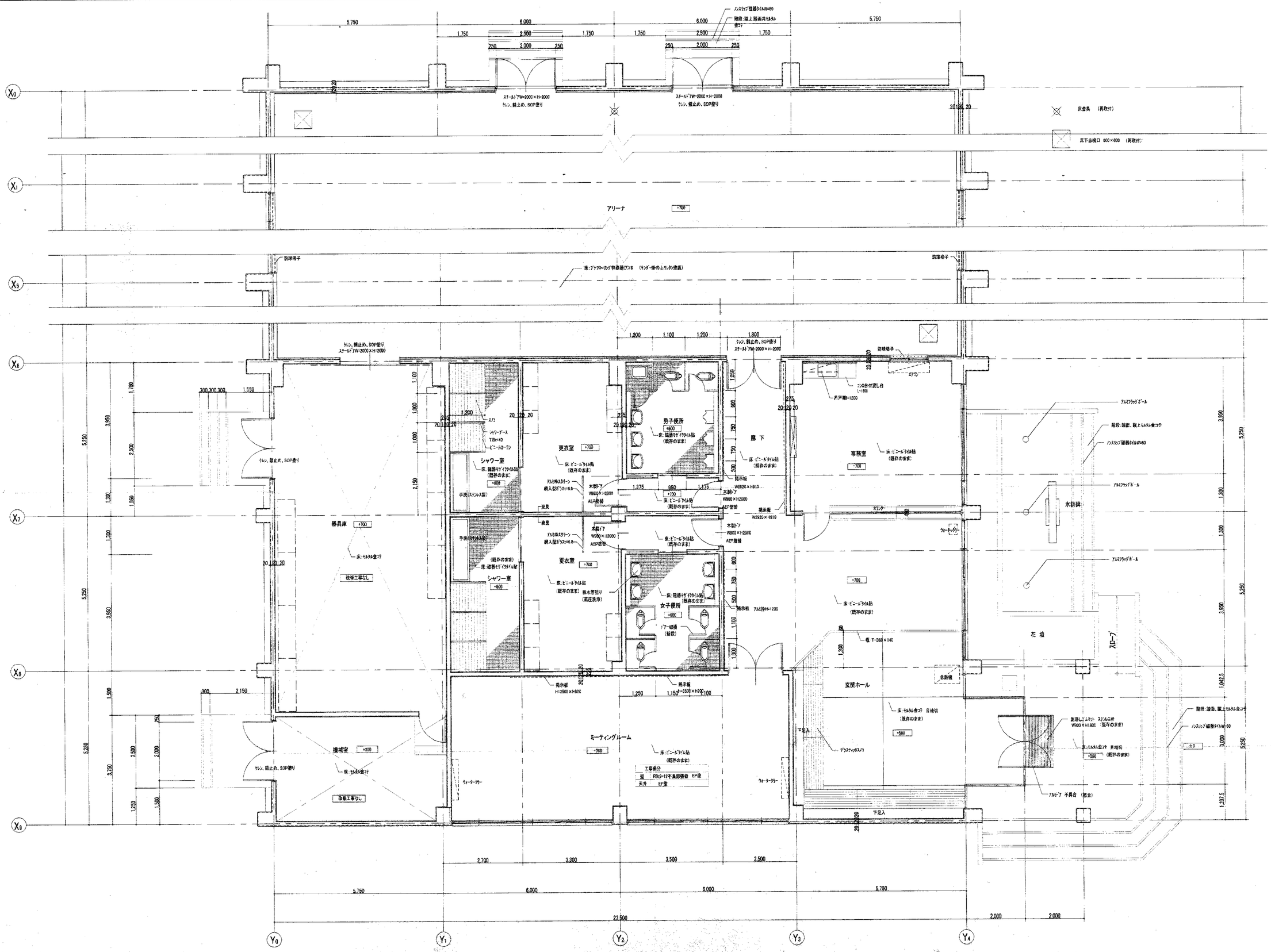
工事名称 岡部B&G海洋センター体育館改修工事
図面名称 天 井 伏 図 (改修後)

No. A-17



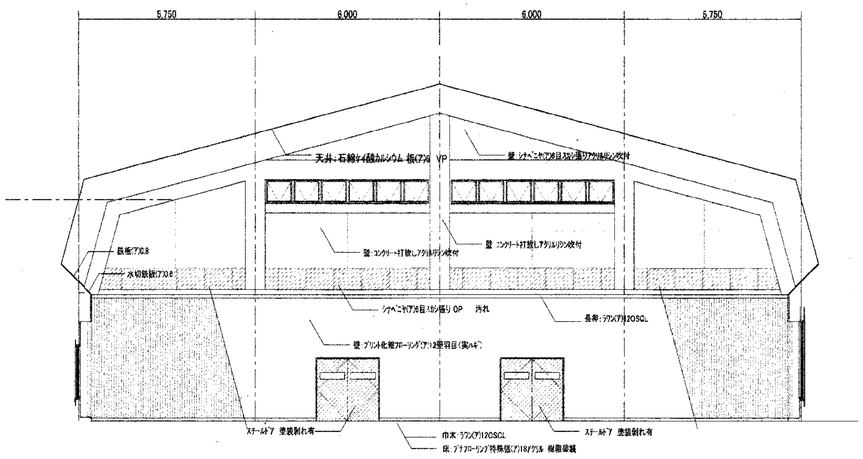
縮尺	1/60	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事
設計年月日		図面名称	平面詳細図 (改修前)

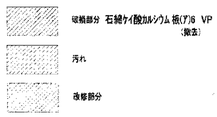
No. A-18

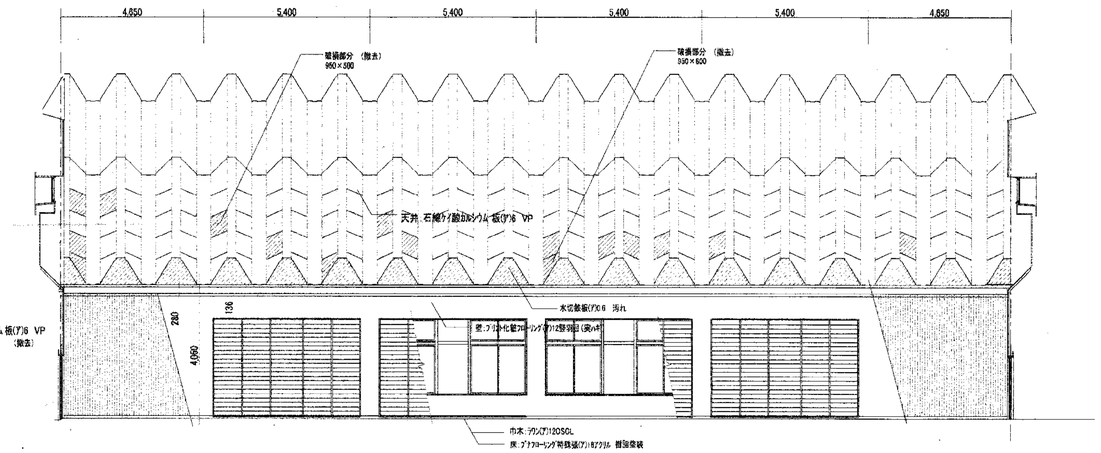


縮尺 1/60	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-19
設計年月日	図面名称	平面詳細図 (改修後)	

改修前



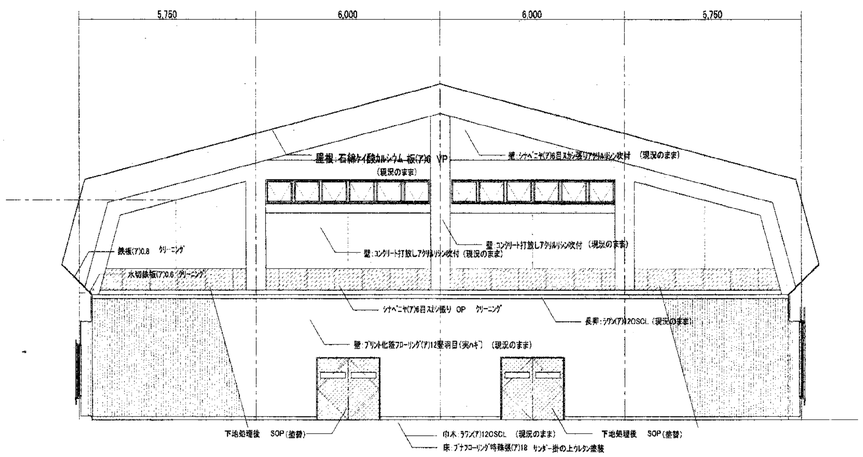


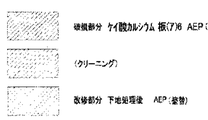


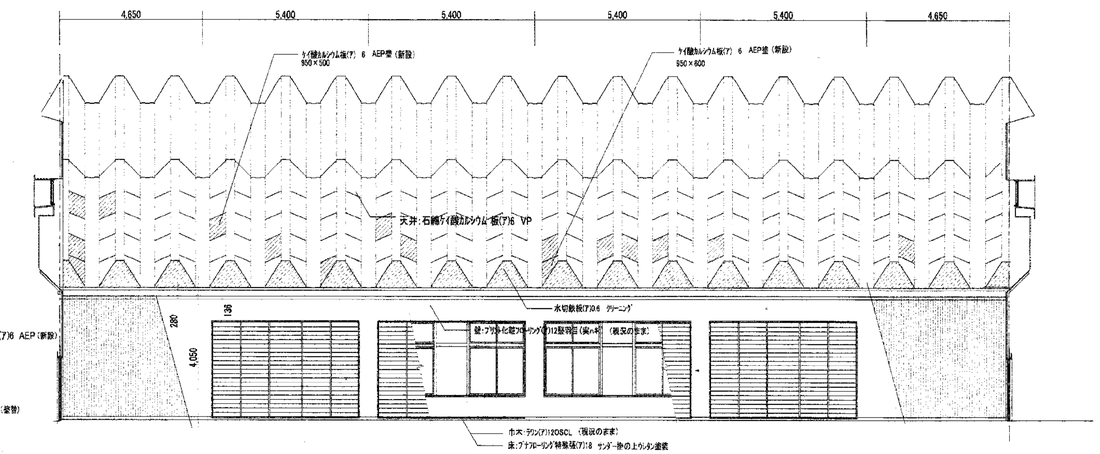
A

B

改修後





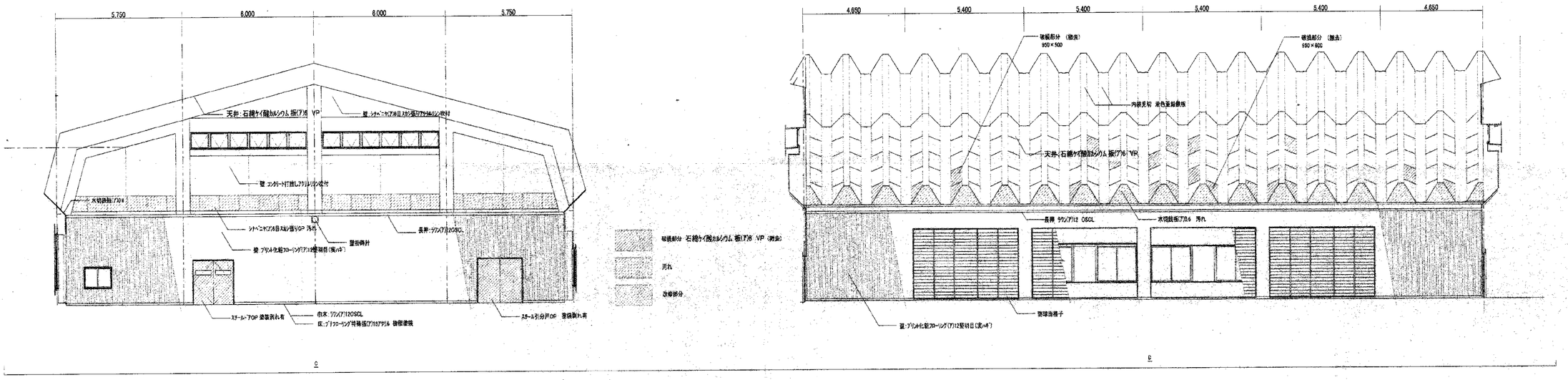


A

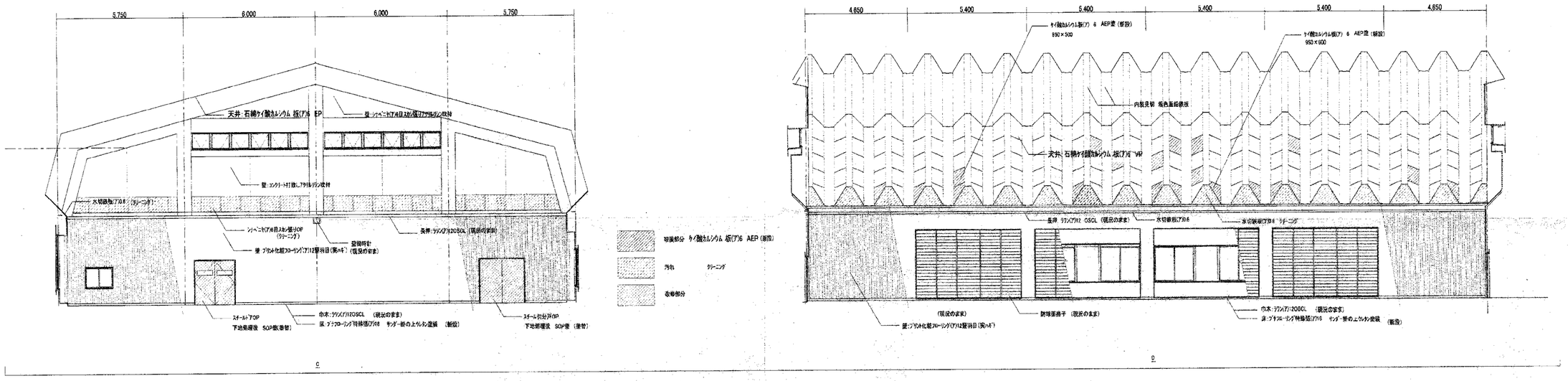
B

承認	設計	担当	照査	縮尺 1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-20
				設計年月日	図面名称	展開図 (1)	

改修前



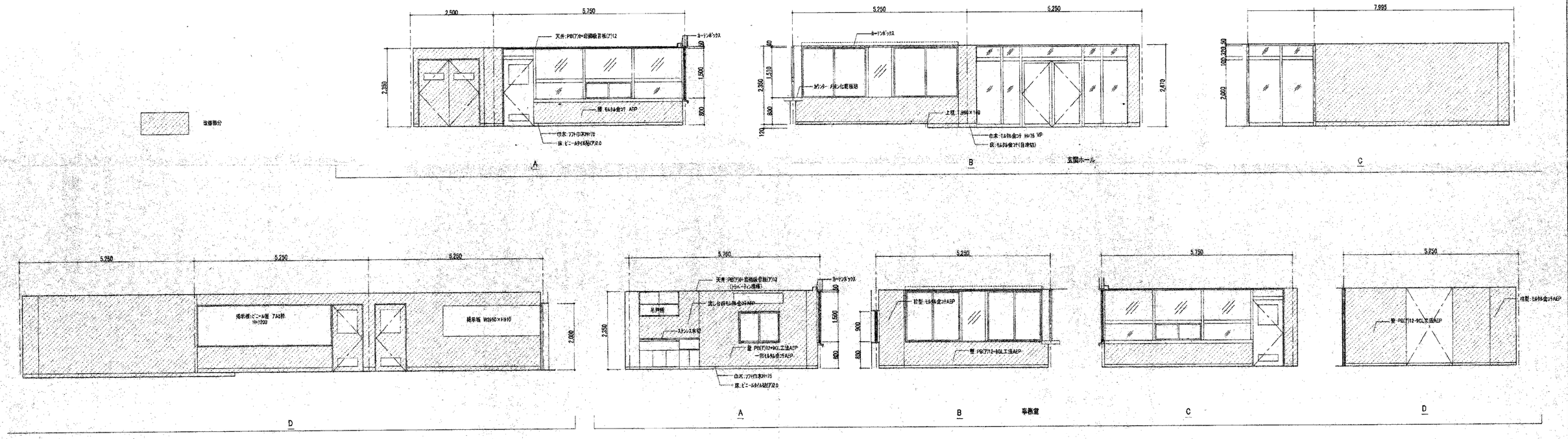
改修後



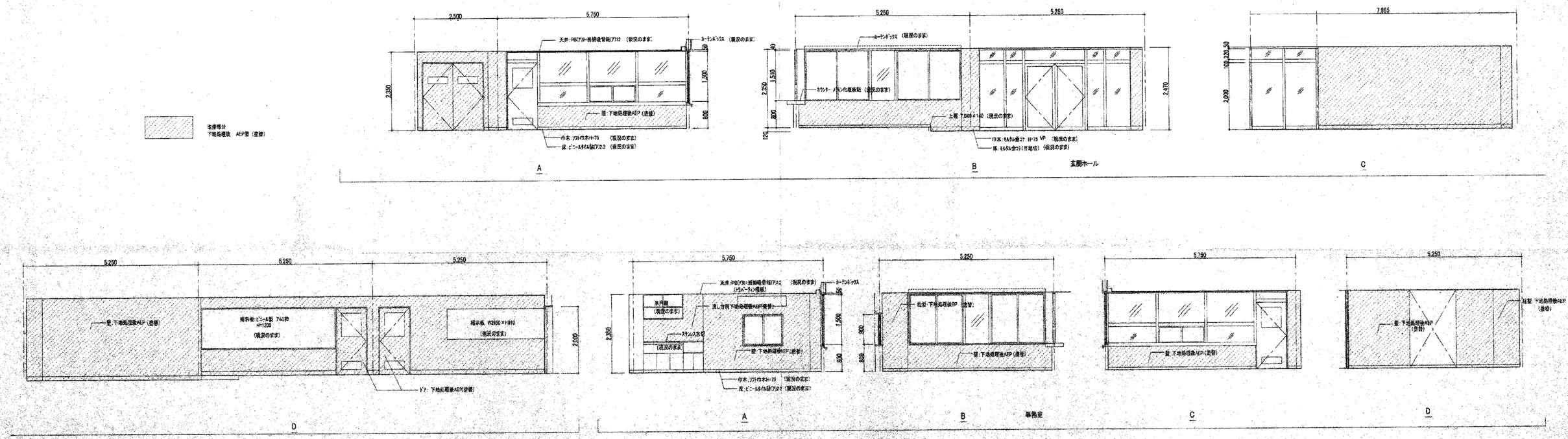
承認	設計	担当	照査	縮尺	1/100	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No.	A-21
				設計年月日		図面名称	展開図 (2)		

[redacted]

改修前

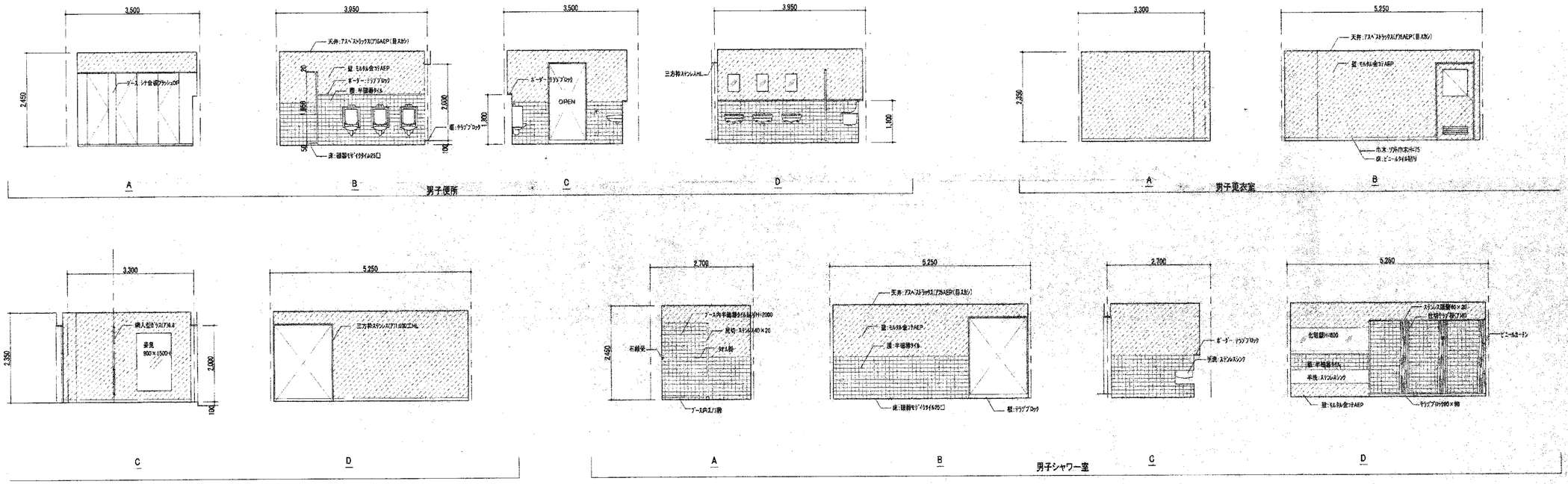


改修後

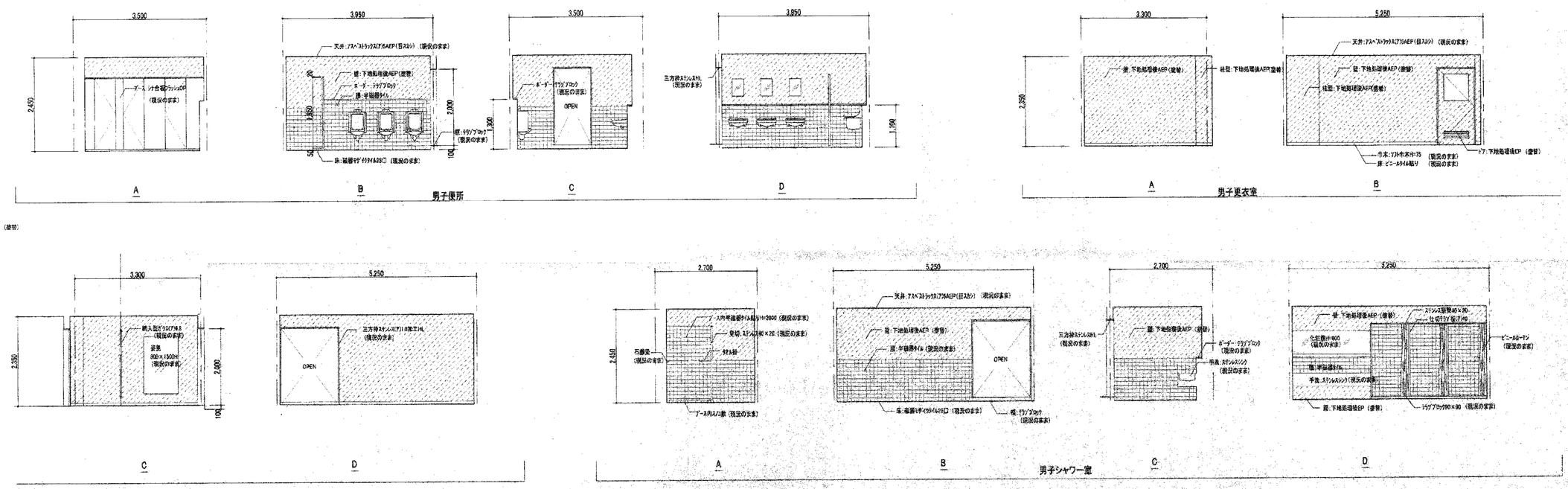


承認	設計	担当	審査	縮尺 1/60	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-22
				設計年月日	図面名称	展開図 (3)	

改修前

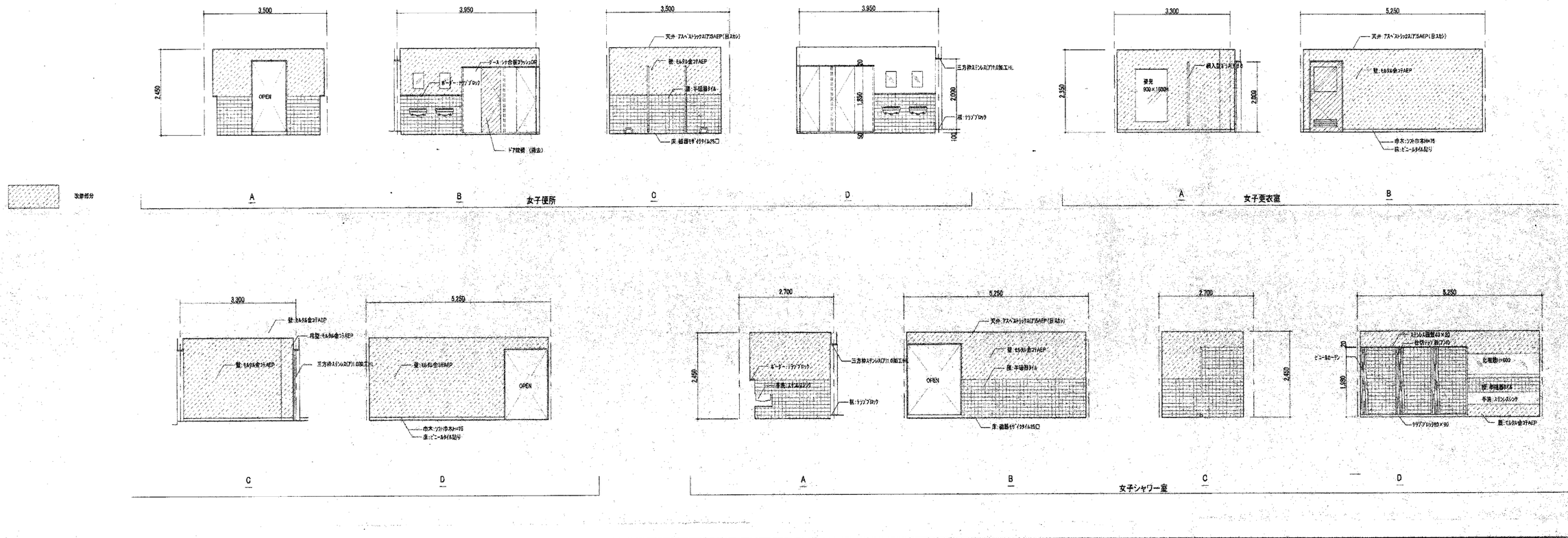


改修後

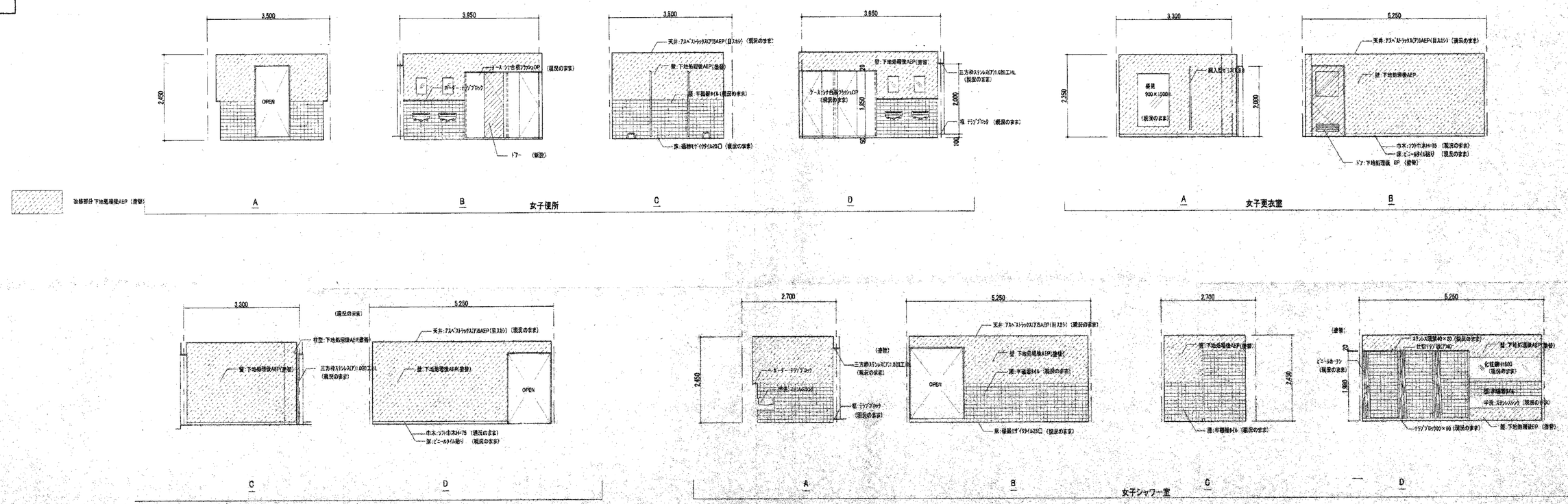


承認	設計	担当	検査	縮尺 1/60	工事名称	鶴部B&G海洋センター体育館改修工事	No. A-23
				設計年月日	図面名称	展開図 (4)	

改修前



改修後



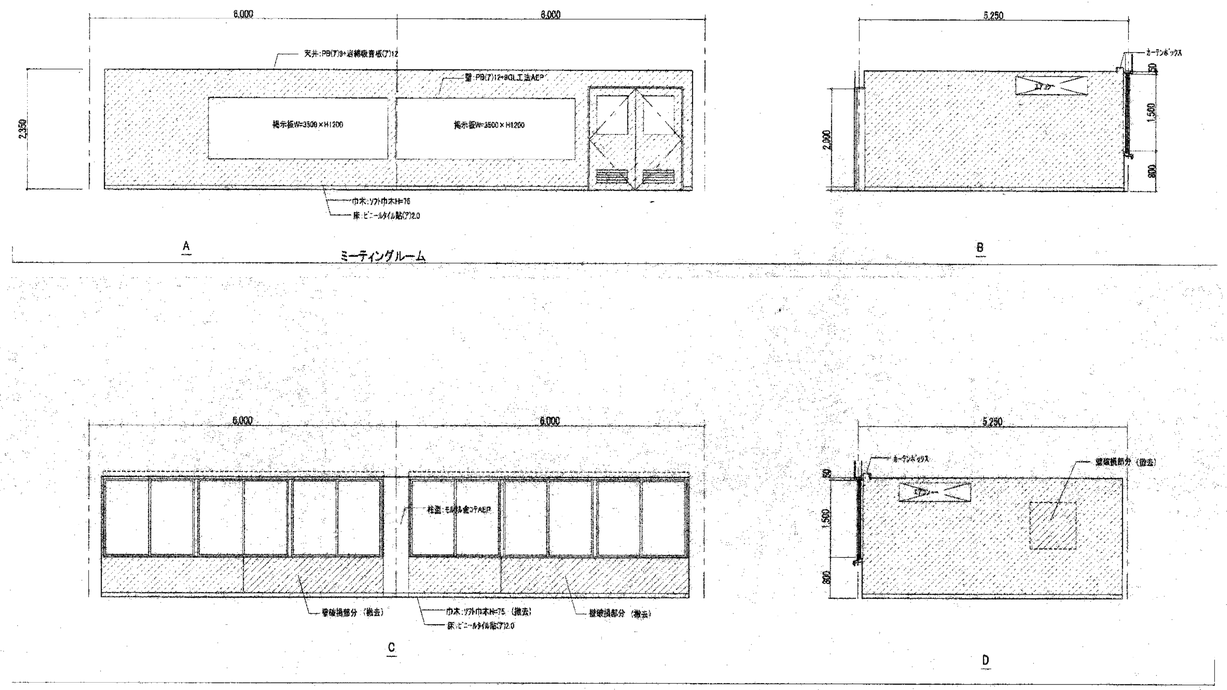
承認	検討	協議	照査	縮尺	1/60
				設計年月日	

工事名称：岡都G&B海洋センター体育館改修工事

図面名称：長柳図（5）

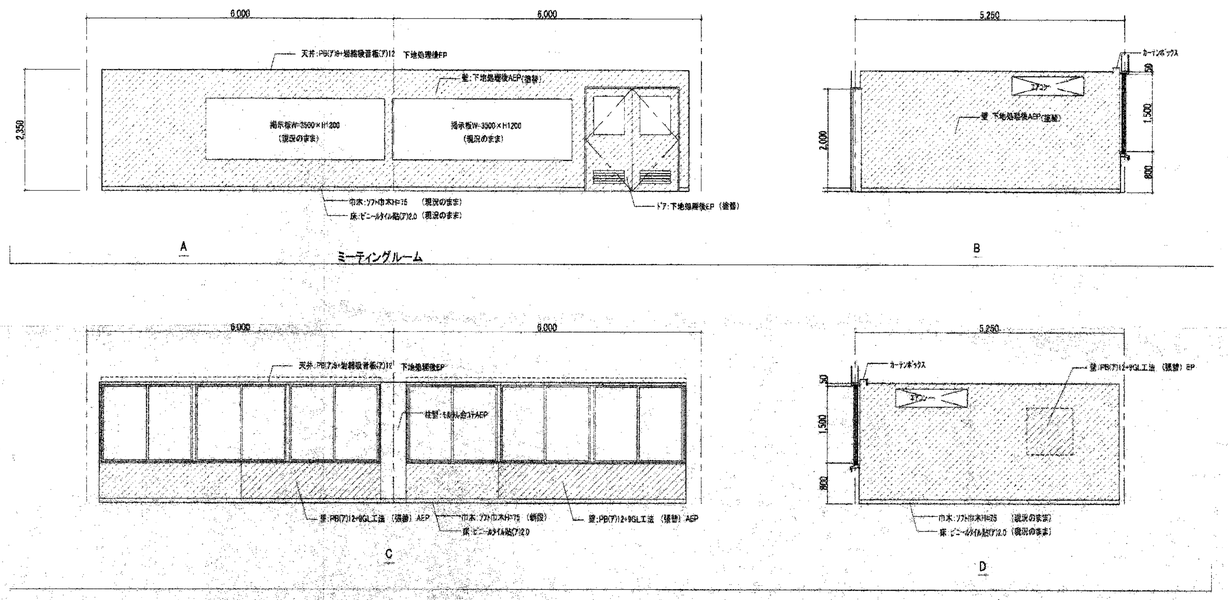
No. A-24

改修前



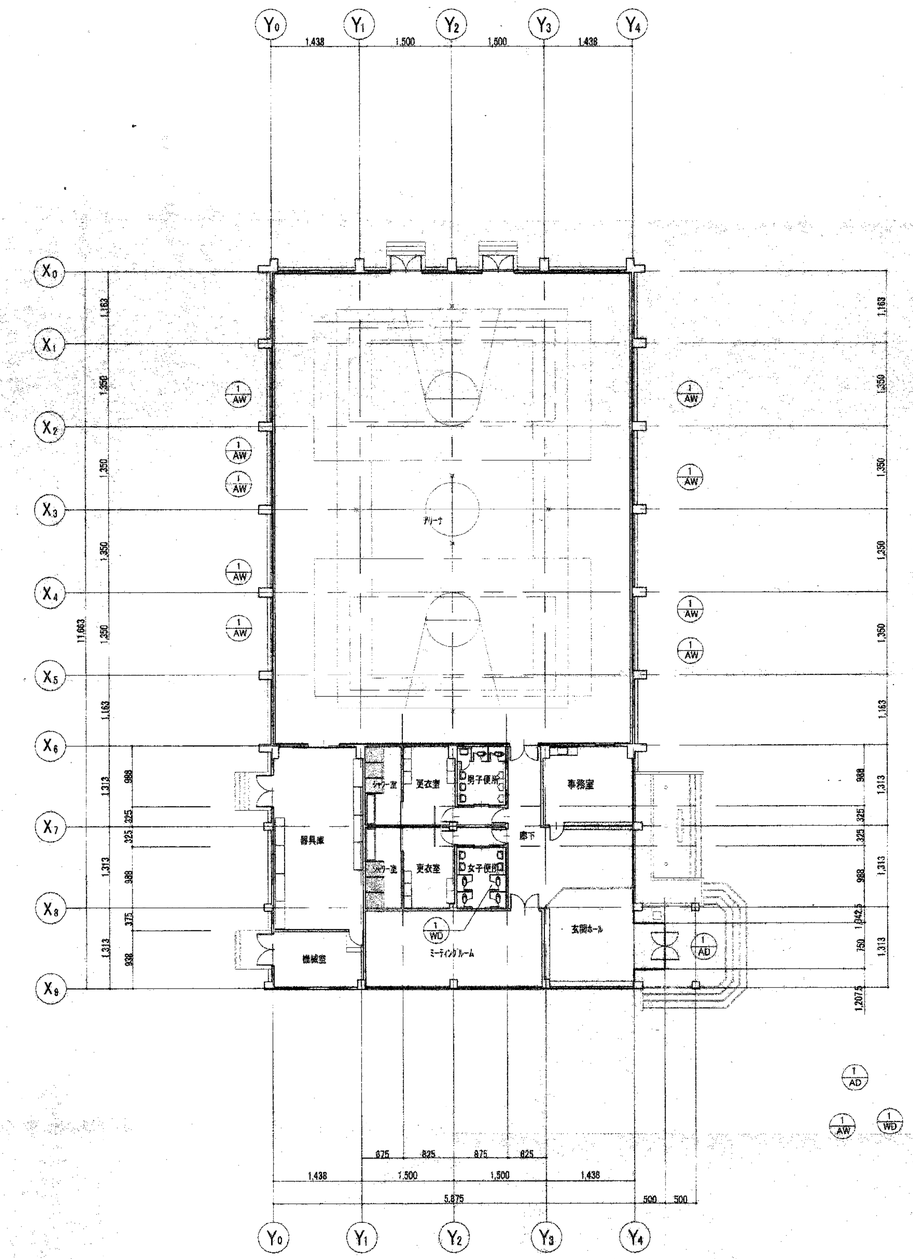
送修部分

改修後

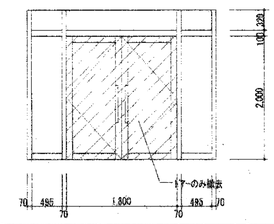
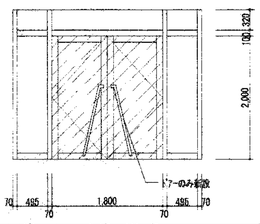
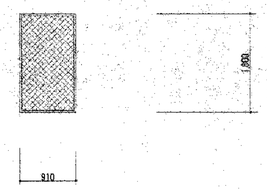
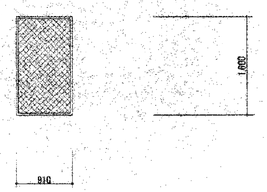
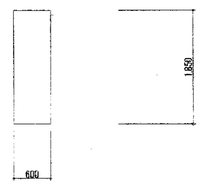
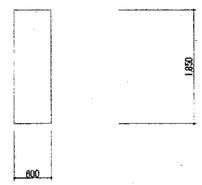


塗修部分　下地処理後AEP

承認	設計	担当	現場	縮尺 1/60	工事名称	岡部G&B海洋センター体育館改修工事	No. A-25
				設計年月日	図面名称	展開図（6）	



キープラン　S=1:200

記号・個数	1/AD　撤去　1	新設　1		
形状				
種別	両開アルミドアー	両開アルミドアー		
使用場所	玄関	玄関		
仕上	アルマイト	アルマイト		
ガラス	透明ガラス t=5.0	透明ガラス t=5.0		
金物	フロアーセンシ　シリンダー錠　DC　ステンレス押板	フロアーセンシ　シリンダー錠　DC　ステンレス押板		
見込	40　枠・70	40　枠・70		
備考				
記号・個数	1/AW　網撤去　9	網張替　9		
形状				
種別	アルミ網戸	アルミ網戸		
使用場所	アリーナ	アリーナ		
仕上				
ガラス				
金物				
見込				
備考				
記号・個数	1/WD　撤去　1	新設　1		
形状				
種別	木製フラッシュドア	木製フラッシュドア		
使用場所	女子便所	女子便所		
仕上	シナベニヤ OP	ポリエステル化粧合板　ペーパーハニカム芯		
ガラス				
金物	ラバトリーセンシ　表示錠	ラバトリーセンシ　表示錠		
見込	40	40		
備考				
記号・個数				
形状				
種別				
使用場所				
仕上				
ガラス				
金物				
見込				
備考				

[redacted]

承認	設計	担当	照査	縮尺 1/200　1/50 設計年月日	工事名称	岡部B&G海洋センター体育館改修工事	No. 26
					図面名称	キープラン　建具表	